

# 1 概況

## (1) 総合指数

広島市、福山市、三次市の3市ともに6年連続の下落

家庭用耐久財や教養娯楽用耐久財などの値下がりにより、前年比は3市ともに下落。

広島市、三次市は、下落幅が縮小。

総合指数の前年比が、3市ともに6年連続下落したのは、比較可能な昭和49年以来初めて。

全国は前年と同一であった。

表1 総合指数の推移

(平成12年=100)

区分		10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
広島市	指数	100.5	100.3	100.0	99.1	98.5	98.1	97.8
	前年比(%)	0.2	0.2	0.3	0.9	0.6	0.4	0.3
福山市	指数	101.7	101.2	100.0	99.2	98.3	98.1	97.7
	前年比(%)	0.5	0.5	1.2	0.8	0.9	0.2	0.4
三次市	指数	101.7	101.1	100.0	98.8	98.1	97.8	97.7
	前年比(%)	0.6	0.6	1.1	1.2	0.7	0.3	0.1
全国	指数	101.0	100.7	100.0	99.3	98.4	98.1	98.1
	前年比(%)	0.6	0.3	0.7	0.7	0.9	0.3	0.0

平成10年は、天候不順による生鮮野菜の高騰などにより上昇。

平成11年は、前年に高騰した生鮮野菜の値下がりなどにより下落。

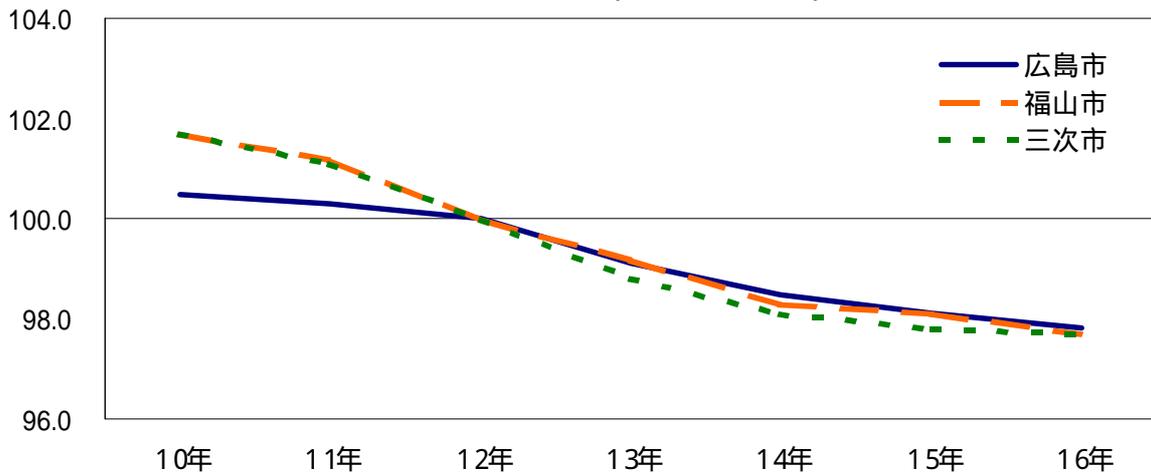
平成12年は、順調に入荷した生鮮食品や家庭用耐久財などの値下がりにより下落。

平成13年は、教養娯楽用耐久財や通信などの値下がりにより下落。

平成14年は、教養娯楽用耐久財や生鮮野菜などの値下がりにより下落。

平成15年は、教養娯楽用耐久財や洋服などの値下がりにより下落。

図1 総合指数の動き(平成12年=100)



(2) 生鮮食品を除く総合指数

広島市は4年連続、福山市は5年連続、三次市は6年連続下落

広島市は4年連続、福山市は5年連続、三次市は6年連続下落した。

広島市は下落幅が縮小、福山市は拡大、三次市は同一であった。

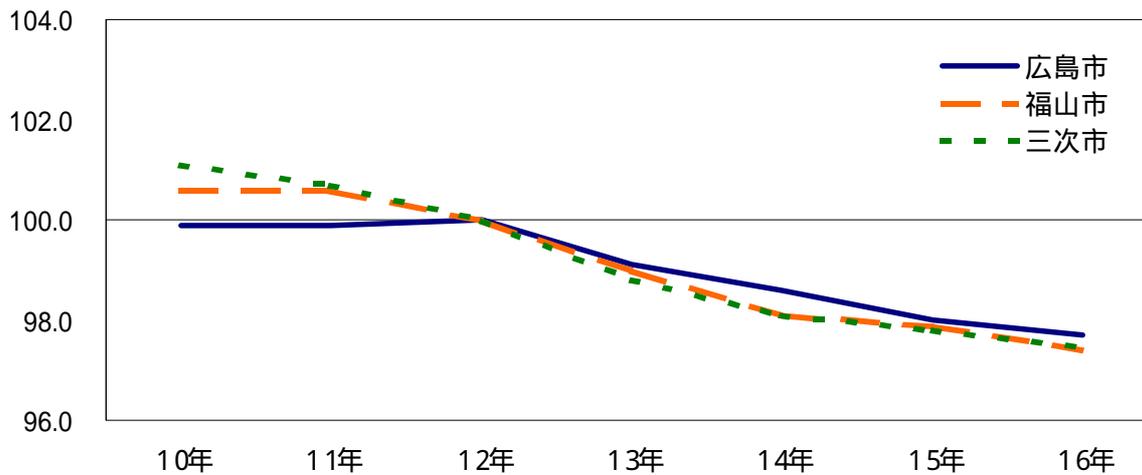
全国は5年連続して下落し、下落幅は前年に比べて縮小した。

表2 生鮮食品を除く総合指数の推移

(平成12年=100)

区 分		10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
広島市	指 数	99.9	99.9	100.0	99.1	98.6	98.0	97.7
	前年比(%)	0.2	0.0	0.1	0.9	0.5	0.6	0.3
福山市	指 数	100.6	100.6	100.0	99.0	98.1	97.9	97.4
	前年比(%)	0.1	0.0	0.6	1.0	0.9	0.2	0.5
三次市	指 数	101.1	100.7	100.0	98.8	98.1	97.8	97.5
	前年比(%)	0.3	0.4	0.7	1.2	0.7	0.3	0.3
全 国	指 数	100.4	100.4	100.0	99.2	98.3	98.0	97.9
	前年比(%)	0.3	0.0	0.4	0.8	0.9	0.3	0.1

図2 生鮮食品を除く総合指数の動き (平成12年=100)



(3) 全国との比較(総合指数の前年比)

**広島市の前年比は47都道府県庁所在都市中第37位**

平成16年の全国の前年比は0.0%であったが、都道府県庁所在都市のうち、全国より高かった都市は神戸市(0.5%)をはじめ17市、低かった都市は前橋市(0.6%)をはじめ24市、同じであった都市は岐阜市をはじめ6市であった。

広島市の前年比の順位は、47都道府県庁所在都市中、仙台市、千葉市及び松江市と並び第37位となった。

表3 総合指数の前年比の全国順位

順位	都道府県庁 所在都市	前年比(%)	順位	都道府県庁 所在都市	前年比(%)
1	神戸市	0.5	24	水戸市	0.1
1	長崎市	0.5	24	東京都区部	0.1
3	盛岡市	0.4	24	富山市	0.1
3	福井市	0.4	24	高松市	0.1
5	新潟市	0.3	24	松山市	0.1
5	甲府市	0.3	24	佐賀市	0.1
5	山口市	0.3	24	大分市	0.1
5	鹿児島市	0.3	24	宮崎市	0.1
9	札幌市	0.2	33	横浜市	0.2
9	さいたま市*	0.2	33	大阪市	0.2
9	長野市	0.2	33	和歌山市	0.2
9	津市	0.2	33	鳥取市	0.2
9	岡山市	0.2	37	仙台市	0.3
14	山形市	0.1	37	千葉市	0.3
14	福島市	0.1	37	松江市	0.3
14	高知市	0.1	37	<b>広島市</b>	0.3
14	那覇市	0.1	41	宇都宮市	0.4
18	岐阜市	0.0	41	静岡市	0.4
18	名古屋市	0.0	41	福岡市	0.4
18	大津市	0.0	44	秋田市	0.5
18	京都市	0.0	44	金沢市	0.5
18	徳島市	0.0	44	奈良市	0.5
18	熊本市	0.0	47	前橋市	0.6
24	青森市	0.1		全国	0.0

\*旧「浦和市」の結果を「さいたま市」として表章

(4) 全国との比較(生鮮食品を除く総合指数の前年比)

**広島市の前年比は47都道府県庁所在都市中第28位**

平成16年の全国の前年比は0.1%であったが、都道府県庁所在都市のうち、全国より高かった都市は長崎市(0.5%)をはじめ17市、低かった都市は前橋市(0.8%)をはじめ25市、同じであった都市は岐阜市をはじめ5市であった。

広島市の前年比の順位は、47都道府県庁所在都市中、富山市、京都市、松江市、徳島市、松山市、高知市及び佐賀市と並び第28位となった。

表4 生鮮食品を除く総合指数の前年比の全国順位

順位	都道府県庁所在都市	前年比(%)	順位	都道府県庁所在都市	前年比(%)
1	長崎市	0.5	23	東京都区部	0.2
2	盛岡市	0.4	23	高松市	0.2
2	福井市	0.4	23	宮崎市	0.2
4	山口市	0.3	28	富山市	0.3
5	札幌市	0.1	28	京都市	0.3
5	長野市	0.1	28	松江市	0.3
5	神戸市	0.1	28	<b>広島市</b>	0.3
5	鹿児島市	0.1	28	徳島市	0.3
9	山形市	0.0	28	松山市	0.3
9	福島市	0.0	28	高知市	0.3
9	さいたま市*	0.0	28	佐賀市	0.3
9	新潟市	0.0	36	千葉市	0.4
9	甲府市	0.0	36	横浜市	0.4
9	大津市	0.0	36	金沢市	0.4
9	和歌山市	0.0	36	大阪市	0.4
9	岡山市	0.0	40	仙台市	0.5
9	那覇市	0.0	40	静岡市	0.5
18	岐阜市	0.1	40	奈良市	0.5
18	名古屋市	0.1	40	鳥取市	0.5
18	津市	0.1	44	秋田市	0.6
18	熊本市	0.1	44	宇都宮市	0.6
18	大分市	0.1	44	福岡市	0.6
23	青森市	0.2	47	前橋市	0.8
23	水戸市	0.2		全国	0.1

\*旧「浦和市」の結果を「さいたま市」として表章

(5) 3市の月別の動き

総合指数は年後半には上昇、生鮮食品を除く総合指数は、下落幅が縮小

総合指数の前年同月比

広島市は、1月から9月まで下落が続いたが、10月に平成12年3月以来4年7か月ぶりに上昇に転じた。

福山市は、1月から9月まで下落が続いたが、10月に1年3か月ぶりに上昇に転じた。

三次市は、3月から7月まで下落が続いたが、9月に1年2か月ぶりに上昇に転じた。

図3 総合指数の月別の動き（平成12年=100）

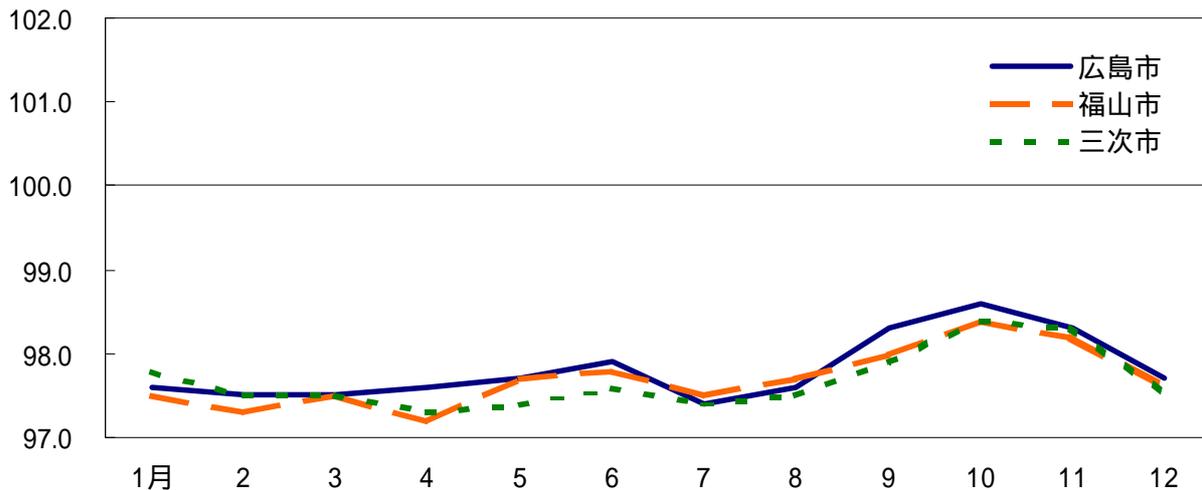


表5 月別消費者物価指数（総合指数）

（平成12年=100）（単位：％）

月	広島市			福山市			三次市		
	指数	前月比	前年同月比	指数	前月比	前年同月比	指数	前月比	前年同月比
1月	97.6	0.1	0.1	97.5	0.0	0.4	97.8	0.1	0.0
2月	97.5	0.1	0.3	97.3	0.2	0.4	97.5	0.3	0.0
3月	97.5	0.0	0.5	97.5	0.2	0.6	97.5	0.0	0.1
4月	97.6	0.1	0.9	97.2	0.3	1.3	97.3	0.2	1.0
5月	97.7	0.1	0.8	97.7	0.5	1.0	97.4	0.1	1.1
6月	97.9	0.2	0.6	97.8	0.1	0.8	97.6	0.2	0.6
7月	97.4	0.5	0.9	97.5	0.3	0.7	97.4	0.2	0.6
8月	97.6	0.2	0.7	97.7	0.2	0.9	97.5	0.1	0.0
9月	98.3	0.7	0.1	98.0	0.3	0.4	97.9	0.4	0.2
10月	98.6	0.3	0.5	98.4	0.4	0.5	98.4	0.5	0.7
11月	98.3	0.3	0.6	98.2	0.2	0.6	98.3	0.1	0.7
12月	97.7	0.6	0.0	97.6	0.6	0.1	97.5	0.8	0.2

生鮮食品を除く総合指数の前年同月比

広島市は、2月から12月まで下落が続き、11か月連続下落した。

福山市は、1月から12月まで下落が続き、14か月連続下落した。

三次市は、4月から7月まで下落が続いたが、10月には、平成11年3月以来5年7か月ぶりに上昇した。

図4 生鮮食品を除く総合指数の月別の動き（平成12年=100）

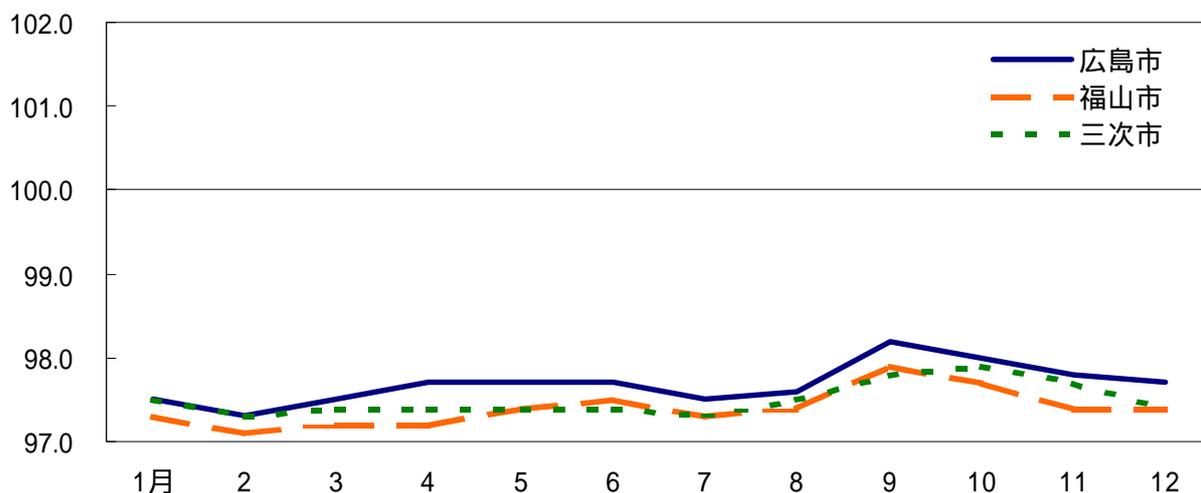


表6 月別消費者物価指数（生鮮食品を除く総合指数）

（平成12年=100）（単位：％）

月	広島市			福山市			三次市		
	指数	前月比	前年同月比	指数	前月比	前年同月比	指数	前月比	前年同月比
1月	97.5	0.4	0.0	97.3	0.5	0.2	97.5	0.2	0.1
2月	97.3	0.2	0.3	97.1	0.2	0.3	97.3	0.2	0.1
3月	97.5	0.2	0.4	97.2	0.1	0.7	97.4	0.1	0.0
4月	97.7	0.2	0.6	97.2	0.0	0.9	97.4	0.0	0.7
5月	97.7	0.0	0.6	97.4	0.2	0.7	97.4	0.0	0.7
6月	97.7	0.0	0.6	97.5	0.1	0.6	97.4	0.0	0.6
7月	97.5	0.2	0.6	97.3	0.2	0.7	97.3	0.1	0.6
8月	97.6	0.1	0.5	97.4	0.1	0.7	97.5	0.2	0.0
9月	98.2	0.6	0.1	97.9	0.5	0.2	97.8	0.3	0.0
10月	98.0	0.2	0.1	97.7	0.2	0.3	97.9	0.1	0.2
11月	97.8	0.2	0.2	97.4	0.3	0.6	97.7	0.2	0.2
12月	97.7	0.1	0.2	97.4	0.0	0.4	97.4	0.3	0.3

(6) 費目別指数の動き

食料, 光熱・水道, 教育は3市ともに上昇

家具・家事用品, 交通・通信, 教養娯楽は3市ともに下落

生鮮野菜などの野菜・海藻は3市ともに上昇。

公立高校授業料などの授業料等は3市ともに上昇。

電気代は3市ともに上昇。

電気冷蔵庫などの家庭用耐久財は3市ともに下落。

自動車保険料(任意)などの自動車等関係費は3市ともに下落。

表7 費目別指数の前年比

費目	広島市		福山市		三次市	
	前年比 (%)	分類	前年比 (%)	分類	前年比 (%)	分類
食料	0.5	野菜・海藻 外食	0.1	穀類 野菜・海藻	0.3	穀類 野菜・海藻
	1.0	生鮮野菜 生鮮果物	1.3	生鮮野菜 生鮮果物	1.0	生鮮野菜 生鮮果物
住居	0.4	家賃 設備修繕・維持	0.4	家賃 設備修繕・維持	0.2	家賃
光熱・水道	0.7	上下水道料 電気代	0.6	他の光熱 電気代	0.5	他の光熱 電気代
家具・ 家事用品	5.2	家庭用耐久財 室内装備品	4.8	家庭用耐久財 室内装備品	3.9	家庭用耐久財 家事雑貨
被服及び 履物	0.1	履物類 シャツ・セーター類	1.1	洋服 履物類	0.7	履物類 シャツ・セーター類
保健医療	0.6	保健医療用品・器具	0.1	保健医療サービス	0.6	保健医療用品・器具
交通・通信	0.6	自動車等関係費 通信	0.4	通信 自動車等関係費	0.9	自動車等関係費 通信
教育	0.7	授業料等 補習教育	1.5	補習教育 授業料等	0.5	授業料等
教養娯楽	1.9	教養娯楽用耐久財 教養娯楽用品	1.9	教養娯楽用耐久財 教養娯楽用品	1.0	教養娯楽用品 教養娯楽サービス
諸雑費	0.1	たばこ 理美容サービス	0.1	たばこ 身の回り用品	0.2	理美容用品 身の回り用品

## 2 財・サービス分類指数の動き

財の前年比は3市ともに下落

サービスの前年比は広島市，三次市は同一，福山市は下落

財の前年比は，広島市 0.5%，福山市 0.6%，三次市 0.3%となり，3市ともに下落した。

財のうち，農水畜産物では，15年の冷夏による米類の不作などにより3市ともに上昇した。

工業製品では，食料工業製品及びその他の工業製品が3市ともに下落し，石油製品は3市ともに上昇した。

電気・都市ガス・水道は，広島市では，都市ガス代の値下げにより下落したが，福山市，三次市では，電気代の値上げにより上昇した。

出版物は，3市ともに上昇した。

サービスの前年比は，広島市0.0%，福山市 0.2%，三次市0.0%となった。

サービスのうち，公共サービスは自動車保険料（任意）の値下がりなどにより3市ともに下落した。

また，一般サービスでは，外食は3市ともに上昇した。民営家賃は3市ともに下落した。

表8 財・サービス分類指数の前年比

(平成12年=100)

費 目	広 島 市			福 山 市			三 次 市		
	指数	前年比(%)		指数	前年比(%)		指数	前年比(%)	
		16年	15年		16年	15年		16年	15年
<b>財</b>	95.5	0.5	1.0	95.4	0.6	0.6	96.3	0.3	0.5
農水畜産物	103.2	1.9	2.2	104.3	1.0	1.6	101.6	1.6	2.1
生鮮商品	101.7	0.6	1.8	102.4	1.2	1.5	101.2	1.0	2.1
他の農水畜産物	114.1	11.2	5.3	117.6	16.7	2.5	104.0	5.5	2.0
工業製品	93.3	1.2	1.6	92.8	1.2	1.1	95.0	0.9	0.9
食料工業製品	95.0	0.6	0.7	94.1	0.5	0.6	96.3	0.7	0.1
繊維製品	95.7	0.4	1.7	91.0	0.7	1.0	93.3	0.1	2.3
石油製品	101.8	3.7	2.4	105.4	4.7	2.0	103.0	2.1	0.1
その他の工業製品	89.7	2.8	2.8	90.1	2.9	2.2	92.1	2.2	1.8
電気・都市ガス・水道	97.9	0.1	2.1	99.0	0.2	1.3	95.8	0.2	2.1
出版物	101.5	0.5	0.3	101.1	0.4	0.2	100.9	0.4	0.1
<b>サ ー ビ ス</b>	100.4	0.0	0.2	100.4	0.2	0.3	99.5	0.0	0.3
公共サービス	100.2	0.4	0.9	100.4	0.8	1.4	100.1	0.5	0.9
一般サービス	100.4	0.1	0.1	100.3	0.1	0.1	99.2	0.2	0.0
外食	101.6	1.6	0.4	100.6	0.6	0.4	100.1	1.0	0.7
民営家賃	102.7	0.1	0.1	99.4	0.6	0.1	98.5	0.1	0.8
持家の帰属家賃	99.2	0.4	0.5	100.7	0.3	0.2	98.1	0.2	0.1
他のサービス	100.0	0.2	0.3	100.0	0.1	0.2	100.3	0.0	0.1

### 3 広島市の動き

#### (1) 総合指数及び生鮮食品を除く総合指数

総合指数は6年連続、生鮮食品を除く総合指数は4年連続の下落

教養娯楽及び家具・家事用品などの下落により、総合指数の前年比は0.3%下落し、下落幅は0.1ポイント縮小した。生鮮食品を除く総合指数の前年比は0.3%下落し、下落幅は0.3ポイント縮小した。

総合指数が6年連続下落したのは、指数作成以来初めてである。

表9 広島市の10大費目別消費者物価指数

(平成12年=100)

区 分	指数	前年比(%)		前年比の動き	費目別の動き	
		16年	15年		上昇した費目	下落した費目
総 合	97.8	0.3	0.4	6年連続下落		
生鮮食品を除く総合	97.7	0.3	0.6	4年連続下落		
食 料	98.7	0.5	0.2	2年連続上昇	野菜・海藻(4.7) 外食(1.6) 穀類(4.2)	魚介類( 3.9) 酒類( 3.4)飲料( 3.4)
生鮮食品	100.7	1.0	2.6	2年連続上昇	生鮮野菜(5.8) 生鮮果物(3.0)	生鮮魚介( 5.5)
住 居	99.8	0.4	0.3	2年連続下落		家賃( 0.4) 設備修繕・維持( 0.4)
光熱・水道	99.9	0.7	1.5	2年ぶりに 上昇	上下水道料(3.1) 電気代(0.3)	ガス代( 0.6)
家具・家事用品	86.2	5.2	3.3	12年連続下落	寝具類(3.0)	家庭用耐久財( 12.8) 室内装備品( 11.4)
被服及び履物	95.5	0.1	2.3	4年ぶりに 上昇	履物類(1.9) シャツ・セーター類(0.9)	和服( 3.3)
保健医療	100.8	0.6	1.8	2年ぶりに 下落	保健医療サービス(0.9)	保健医療用品・器具 ( 5.0)
交通・通信	97.7	0.6	0.3	4年連続下落		自動車等関係費( 0.8) 通信( 1.2)
教 育	103.9	0.7	0.8	指数作成以来 連続して上昇	授業料等(0.7) 補修教育(1.3)	
教養娯楽	91.9	1.9	1.3	7年連続下落	書籍・他の印刷物(0.5)	教養娯楽用耐久財( 11.9) 教養娯楽用品( 3.0)
諸 雑 費	100.6	0.1	0.7	2年連続上昇	たばこ(3.9) 理美容サービス(0.2)	理美容用品( 1.1)

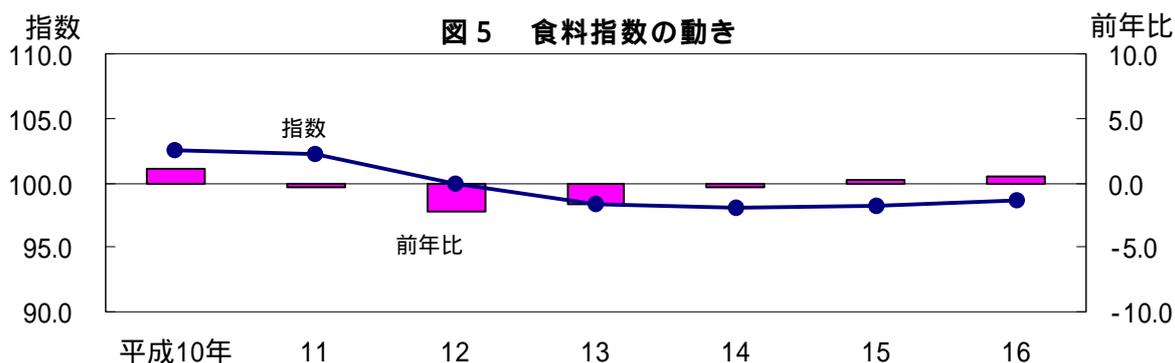
表10 広島市 10大費目の動き（前年比：％）

区分	H10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
総合	0.2	0.2	0.3	0.9	0.6	0.4	0.3
生鮮食品を除く総合	0.2	0.0	0.1	0.9	0.5	0.6	0.3
食料	1.1	0.3	2.2	1.7	0.3	0.2	0.5
生鮮食品	7.4	4.7	6.6	0.5	2.3	2.6	1.0
住居	0.1	0.4	0.7	0.5	0.0	0.3	0.4
光熱・水道	2.2	1.9	2.2	0.4	0.3	1.5	0.7
家具・家事用品	2.0	3.2	2.5	2.0	4.1	3.3	5.2
被服及び履物	0.1	3.0	1.8	1.7	0.7	2.3	0.1
保健医療	5.2	2.5	0.4	0.7	1.1	1.8	0.6
交通・通信	2.0	0.3	0.6	0.7	0.7	0.3	0.6
教育	2.7	2.1	1.3	0.8	1.6	0.8	0.7
教養娯楽	0.6	2.2	1.0	2.9	2.3	1.3	1.9
諸雑費	0.8	1.0	0.1	0.5	0.7	0.7	0.1

（2）費目別指数の動き（平成12年=100，前年比：％，以下同じ。）

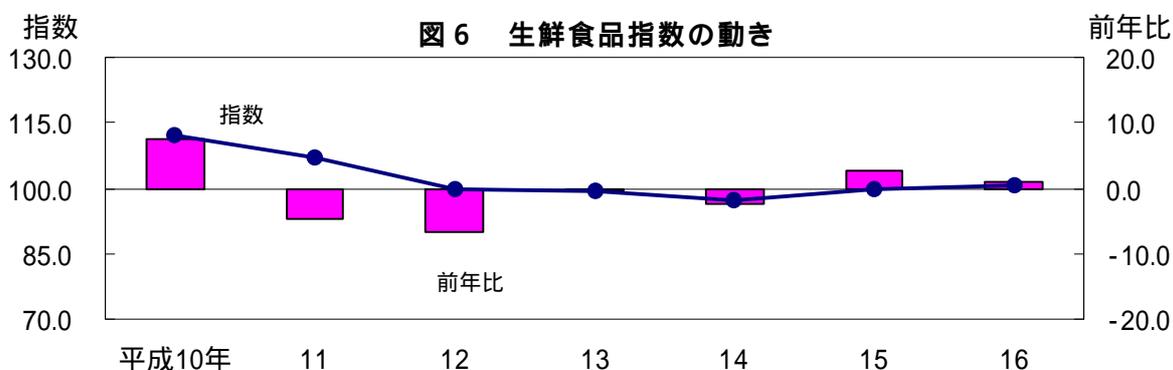
食料（98.7）は野菜・海藻の値上げなどにより0.5％上昇

ねぎ、はくさいなどの野菜・海藻（104.5）が4.7％の上昇，ビール(外食)などの外食（101.6）が1.6％の上昇などにより，食料は2年連続上昇した。



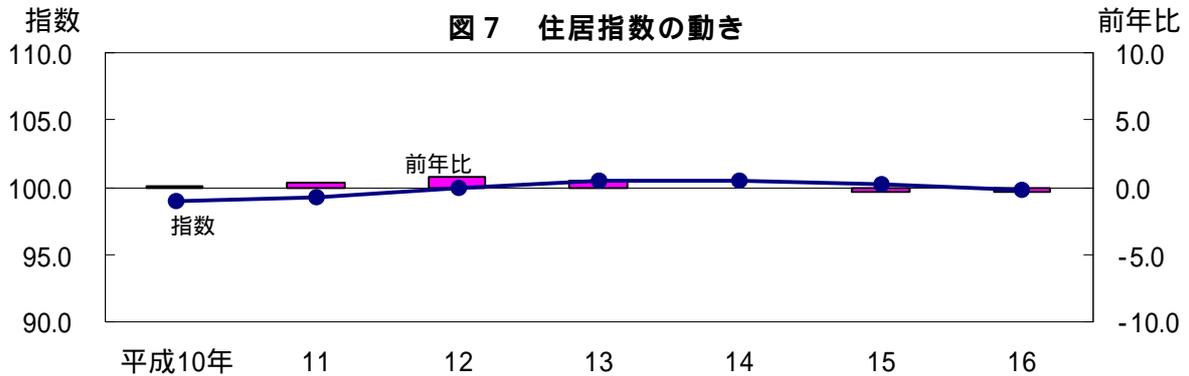
生鮮食品（100.7）は生鮮野菜の値上げなどにより1.0％上昇

生鮮野菜（113.2）が5.8％の上昇，生鮮果物（100.3）が3.0％の上昇などにより，生鮮食品は2年連続上昇した。



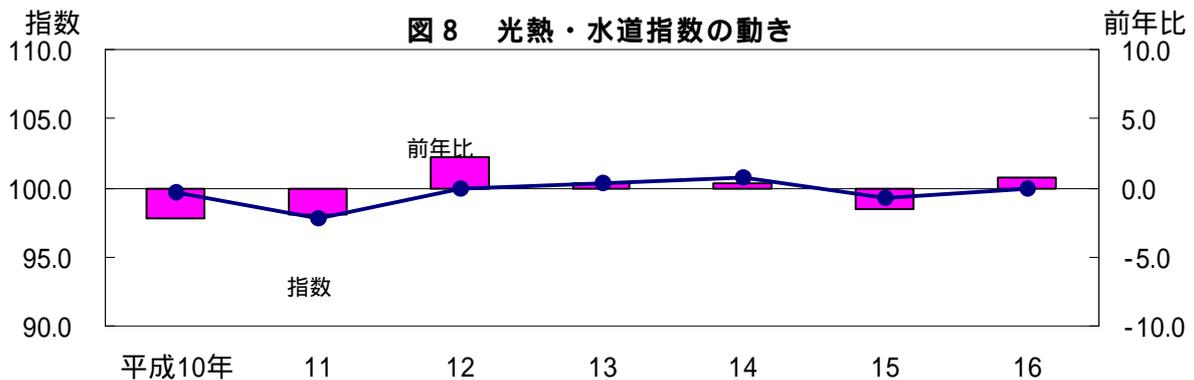
**住居（99.8）は家賃の値下げなどにより 0.4%下落**

持家の帰属家賃などの家賃（100.2）が0.4%の下落，植木手間代などの設備修繕・維持（98.1）が0.4%の下落などにより，住居は2年連続下落した。



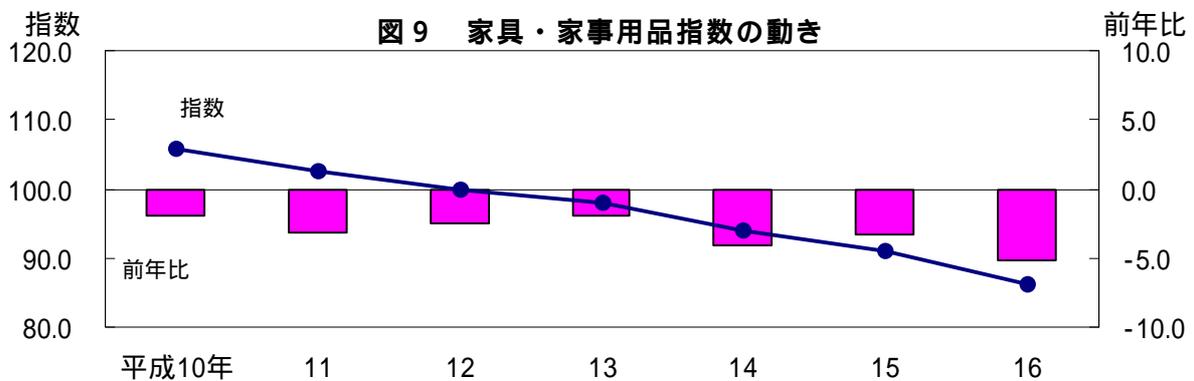
**光熱・水道（99.9）は上下水道料の値上げなどにより 0.7%上昇**

平成16年7月に値上げした下水道料により上下水道料（110.8）が3.1%の上昇，電気代（94.3）が0.3%の上昇などにより，光熱・水道は2年ぶりに上昇した。



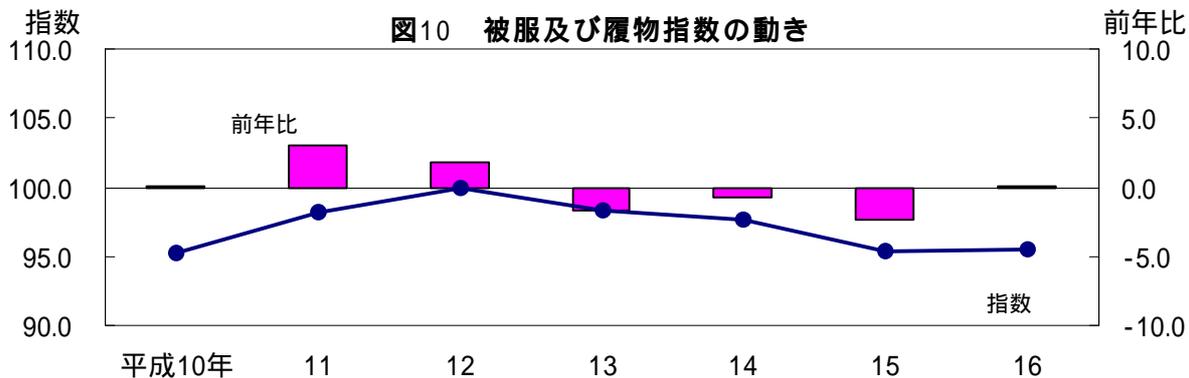
**家具・家事用品（86.2）は家庭用耐久財の値下げなどにより 5.2%下落**

電気冷蔵庫などの家庭用耐久財（65.4）が12.8%の下落，カーペットなどの室内装備品（83.1）が11.4%の下落などにより，家具・家事用品は12年連続して下落した。



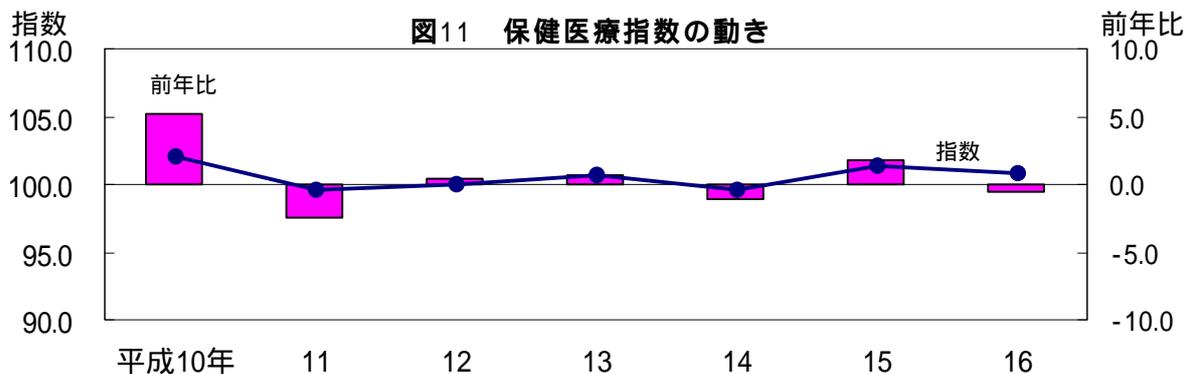
**被服及び履物（95.5）は履物類の値上げなどにより0.1%上昇**

婦人靴などの履物類（96.4）が1.9%の上昇，婦人セーターなどのシャツ・セーター類（104.1）が0.9%の上昇などにより，被服及び履物は4年ぶりに上昇した。



**保健医療（100.8）は保健医療用品・器具の値下げなどにより0.6%下落**

ヘルスメーター，紙おむつなどの保健医療用品・器具（88.6）が5.0%の下落などにより，保健医療は2年ぶりに下落した。



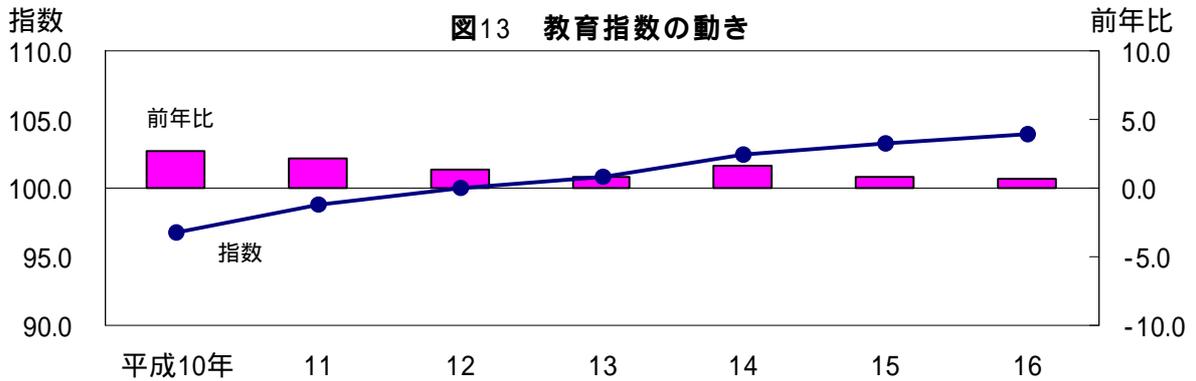
**交通・通信（97.7）は自動車等関係費の値下げなどにより0.6%下落**

自動車保険料(任意)などの自動車等関係費（98.7）が0.8%の下落，固定電話通信料などの通信（91.9）が1.2%の下落などにより，交通・通信は4年連続して下落した。



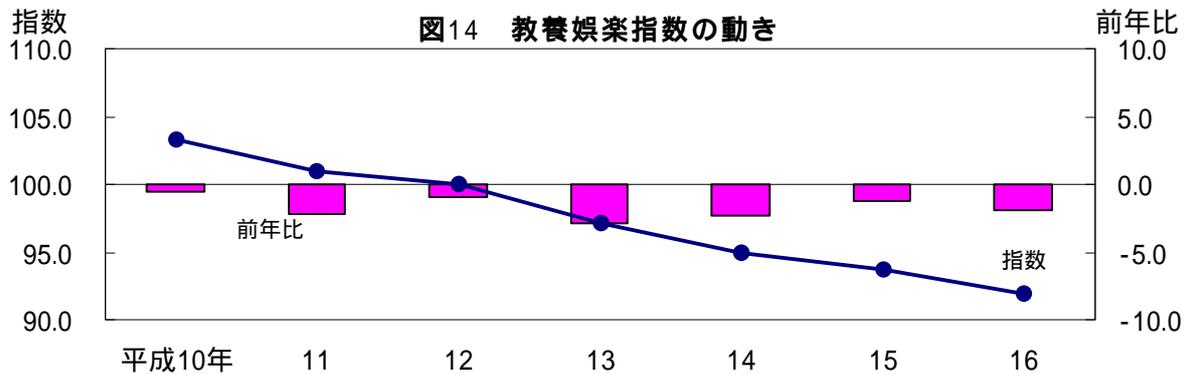
**教育（103.9）は授業料等の値上げなどにより0.7%上昇**

授業料等（103.5）が0.7%の上昇，補習教育（105.5）が1.3%の上昇などにより，教育は指数作成以来連続して上昇したが，上昇幅は縮小した。



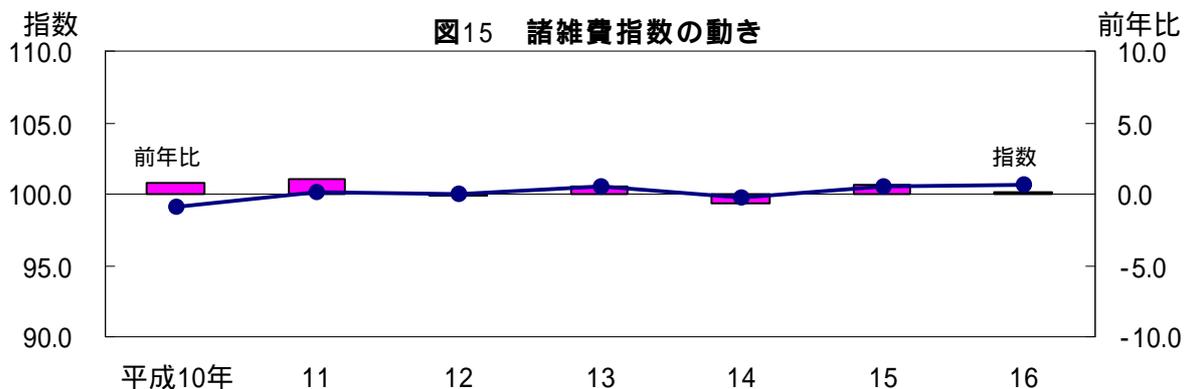
**教養娯楽（91.9）は教養娯楽用耐久財の値下げなどにより1.9%下落**

パソコンなどの教養娯楽用耐久財（56.0）が11.9%の下落，園芸用土などの教養娯楽用品（90.1）が3.0%の下落などにより，教養娯楽は7年連続して下落した。



**諸雑費（100.6）はたばこの値上げなどにより0.1%上昇**

たばこ（108.2）が3.9%の上昇，理髪料などの理美容サービス（101.4）が0.2%の上昇などにより，諸雑費は2年連続上昇した



#### 4 福山市の動き

##### (1) 総合指数及び生鮮食品を除く総合指数

総合指数は6年連続、生鮮食品を除く総合指数は5年連続の下落

教養娯楽、家具・家事用品などの下落により、総合指数の前年比は0.4%下落し、下落幅は0.2ポイント拡大した。生鮮食品を除く総合指数の前年比は0.5%下落し、下落幅は0.3ポイント拡大した。

総合指数が6年連続下落、生鮮食品を除く総合指数が5年連続下落したのは、指数作成以来初めてである。

表1-1 福山市の10大費目別消費者物価指数

(平成12年=100)

区分	指数	前年比(%)		前年比の動き	費目別の動き	
		16年	15年		上昇した費目	下落した費目
総合	97.7	0.4	0.2	6年連続下落		
生鮮食品を除く総合	97.4	0.5	0.2	5年連続下落		
食料	98.4	0.1	0.1	2年連続上昇	穀類(7.4) 野菜・海藻(2.3)	肉類(5.9) 飲料(5.2)
生鮮食品	103.5	1.3	0.1	2年連続上昇	生鮮野菜(3.0) 生鮮果物(2.2)	生鮮魚介(0.6)
住居	100.4	0.4	0.0	指数作成以来初の下落		家賃(0.4)設備修繕・維持(0.6)
光熱・水道	101.0	0.6	0.4	2年ぶりに上昇	他の光熱(9.7) 電気代(0.3)	ガス代(0.2)
家具・家事用品	89.0	4.8	3.0	6年連続下落	寝具類(6.3)	家庭用耐久財(10.9) 室内装備品(13.4)
被服及び履物	90.7	1.1	1.1	4年連続下落	下着類(1.0) シャツ・セーター類(0.1)	洋服(2.0) 履物類(2.0)
保健医療	102.4	0.1	2.7	2年連続上昇	保健医療サービス(0.9)	保健医療用品・器具(3.1)
交通・通信	98.7	0.4	0.2	2年ぶりに下落	交通(0.3)	通信(1.2) 自動車等関係費(0.3)
教育	103.0	1.5	0.5	指数作成以来連続して上昇	補習教育(3.8) 授業料等(0.6)	教科書・学習参考教材(0.3)
教養娯楽	90.6	1.9	1.8	6年連続下落	書籍・他の印刷物(0.5)	教養娯楽用耐久財(13.1) 教養娯楽用品(3.2)
諸雑費	100.4	0.1	0.8	2年連続上昇	たばこ(3.9) 身の回り用品(2.7)	理美容用品(3.4) 理美容サービス(0.3)

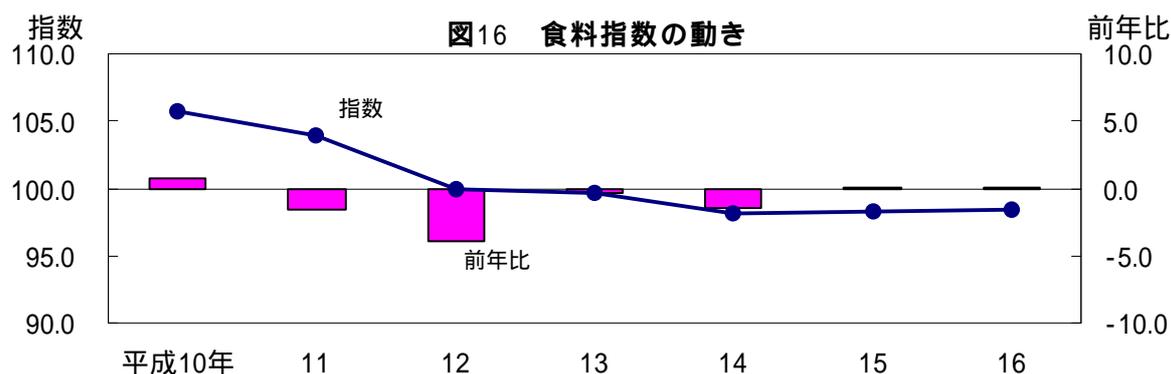
表12 福山市 10大費目の動き（前年比：％）

区分	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
総合	0.5	0.5	1.2	0.8	0.9	0.2	0.4
生鮮食品を除く総合	0.1	0.0	0.6	1.0	0.9	0.2	0.5
食料	0.8	1.6	3.9	0.3	1.5	0.1	0.1
生鮮食品	6.8	8.1	11.8	3.4	1.3	0.1	1.3
住居	0.4	0.8	0.1	0.8	0.0	0.0	0.4
光熱・水道	2.8	0.8	0.6	0.7	1.5	0.4	0.6
家具・家事用品	0.2	0.4	5.9	0.5	3.1	3.0	4.8
被服及び履物	2.6	2.5	6.5	6.2	1.2	1.1	1.1
保健医療	7.3	0.4	1.4	0.8	1.2	2.7	0.1
交通・通信	1.1	0.1	1.6	0.4	0.7	0.2	0.4
教育	2.2	1.8	1.4	0.8	0.2	0.5	1.5
教養娯楽	0.0	1.3	1.5	3.5	2.5	1.8	1.9
諸雑費	0.5	0.2	1.1	0.3	0.2	0.8	0.1

(2) 費目別指数の動き（平成12年=100，前年比：％，以下同じ。）

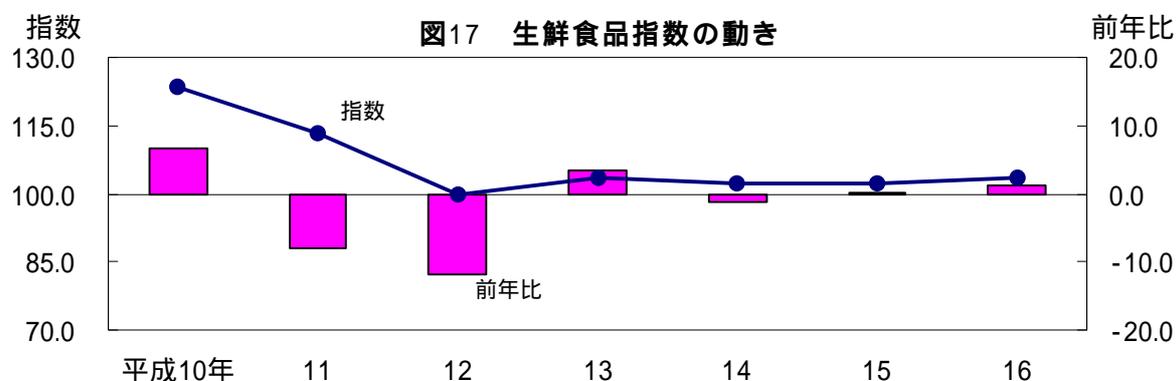
**食料（98.4）は穀類の値上げなどにより0.1％上昇**

国産米などの穀類（102.8）が7.4％の上昇，はくさい，ほうれんそうなどの野菜・海藻（105.1）が2.3％の上昇などにより，食料は2年連続上昇した。



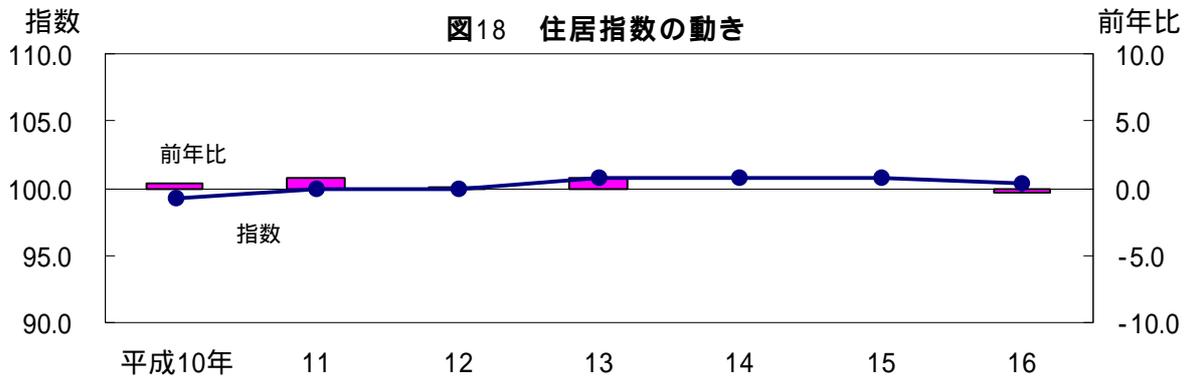
**生鮮食品（103.5）は生鮮野菜の値上げなどにより1.3％上昇**

生鮮野菜（110.9）が3.0％の上昇，生鮮果物（96.4）が2.2％の上昇などにより，生鮮食品は2年連続上昇した。



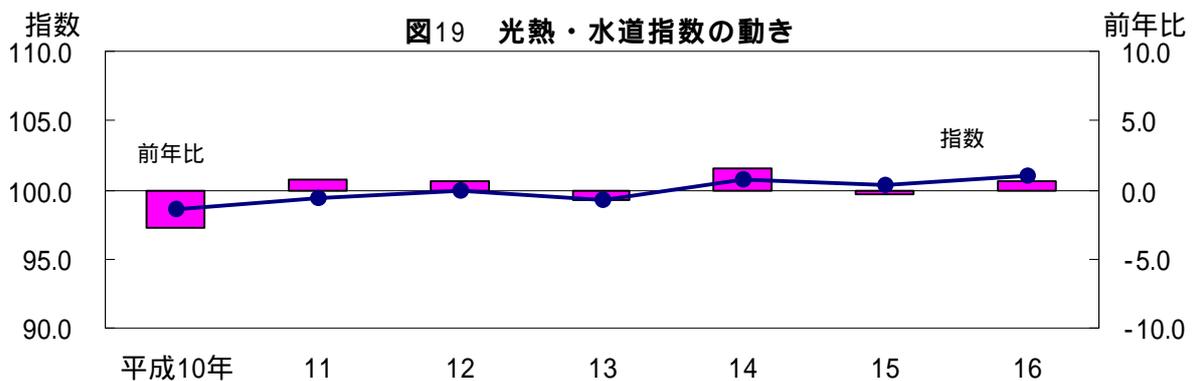
**住居（100.4）は家賃の値下げなどにより 0.4%下落**

持家の帰属家賃などの家賃（100.4）が0.4%の下落，温水洗浄便座などの設備修繕・維持（100.1）が0.6%の下落などにより，住居は指数作成以来初の下落となった。



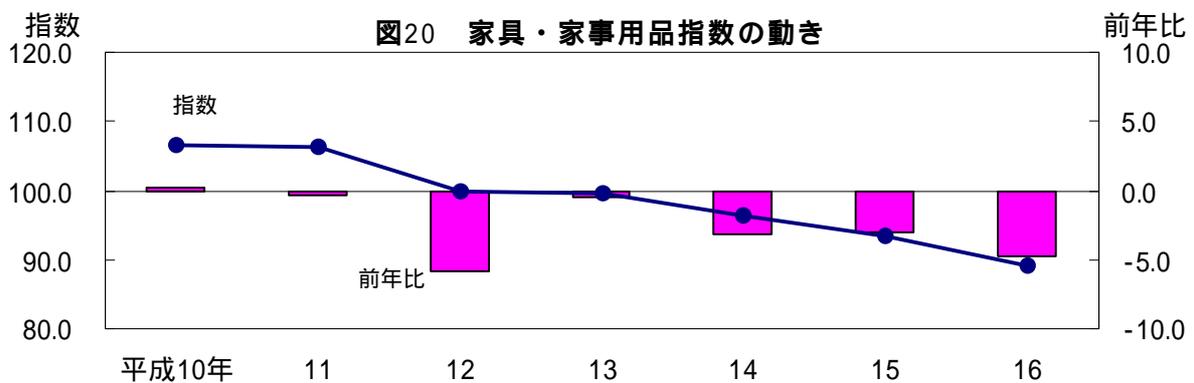
**光熱・水道（101.0）は他の光熱の値上げなどにより 0.6%上昇**

灯油などの他の光熱（114.4）が9.7%の上昇，電気代（94.3）が0.3%の上昇などにより，光熱・水道は2年ぶりに上昇した。



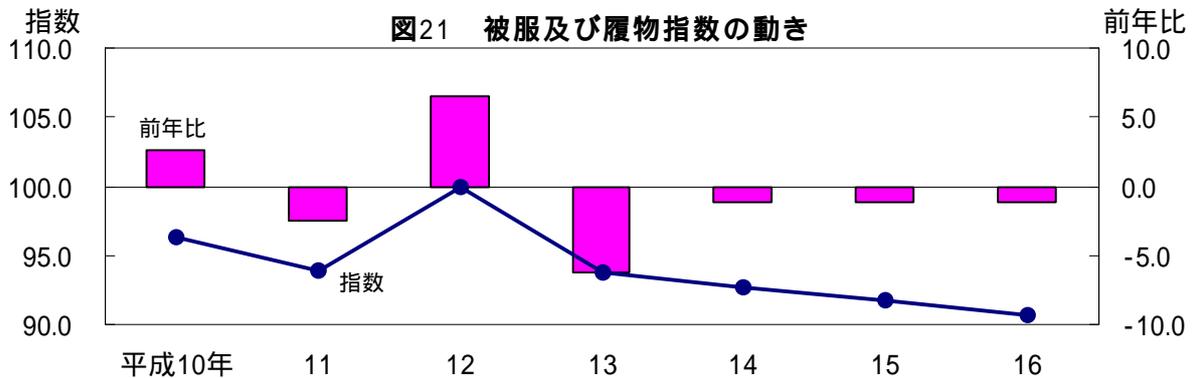
**家具・家事用品（89.0）は家庭用耐久財の値下げなどにより 4.8%下落**

ルームエアコンなどの家庭用耐久財（77.5）が10.9%の下落，カーペットなどの室内装備品（84.7）が13.4%の下落などにより，家具・家事用品は6年連続して下落した。



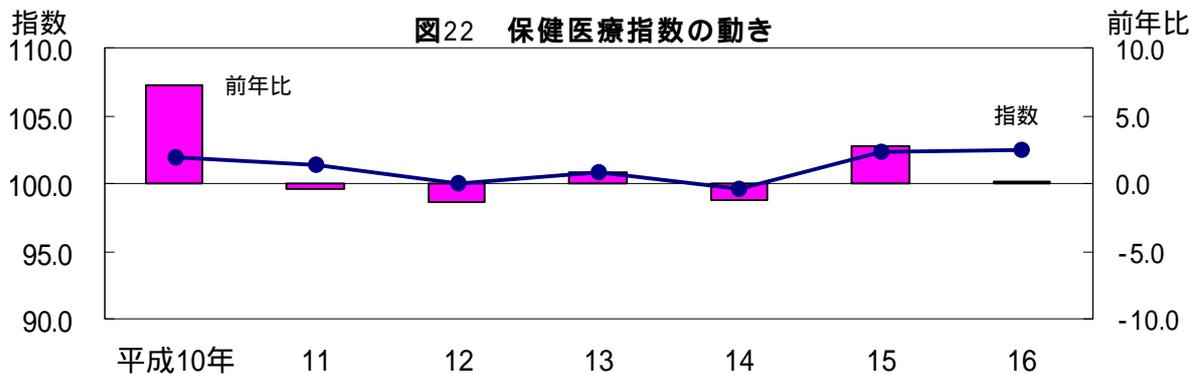
**被服及び履物（90.7）は洋服の値下げなどにより 1.1%下落**

背広、婦人セーターなどの洋服（88.3）が2.0%の下落，運動靴などの履物類（95.4）が2.0%の下落などにより，被服及び履物は4年連続して下落した。



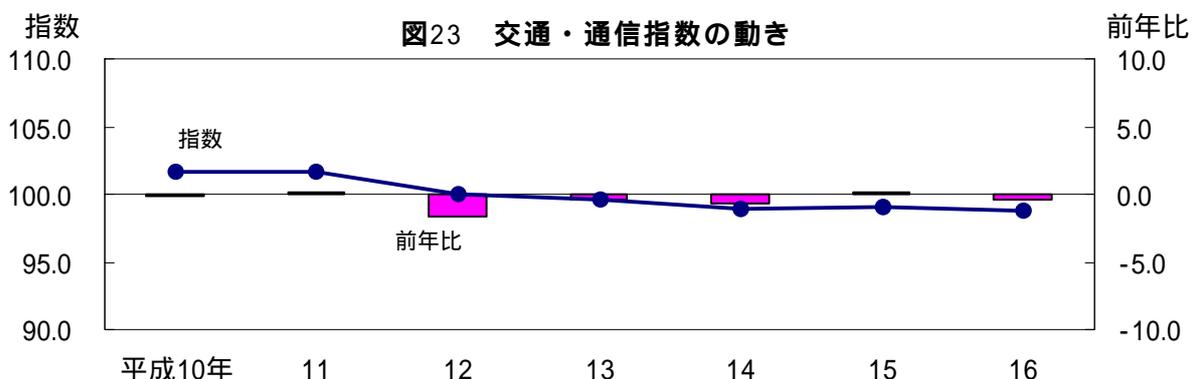
**保健医療（102.4）は保健医療サービスの値上げなどにより 0.1%上昇**

診療代などの保健医療サービス（111.6）が0.9%の上昇などにより，保健医療は2年連続上昇した。



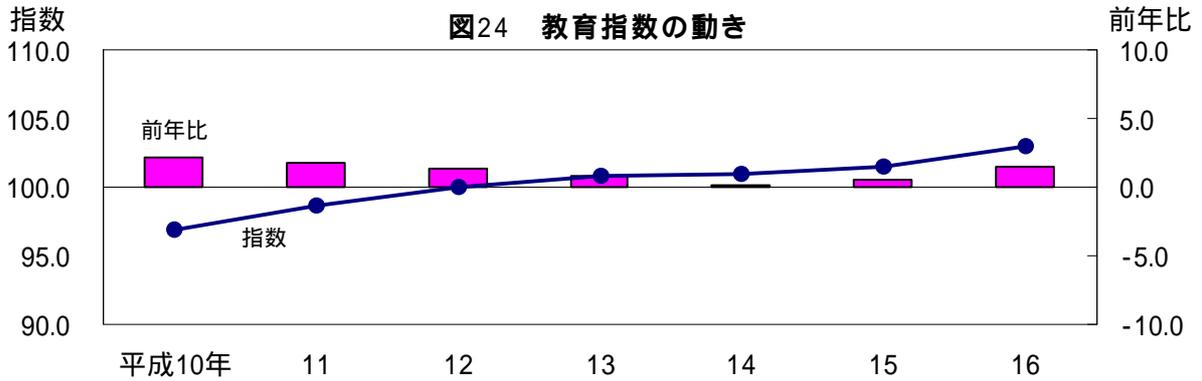
**交通・通信（98.7）は通信の値下げなどにより 0.4%下落**

固定電話通信料などの通信（91.5）が1.2%の下落，自動車保険料(任意)などの自動車等関係費（100.6）は0.3%の下落などにより，交通・通信は2年ぶりに下落した。



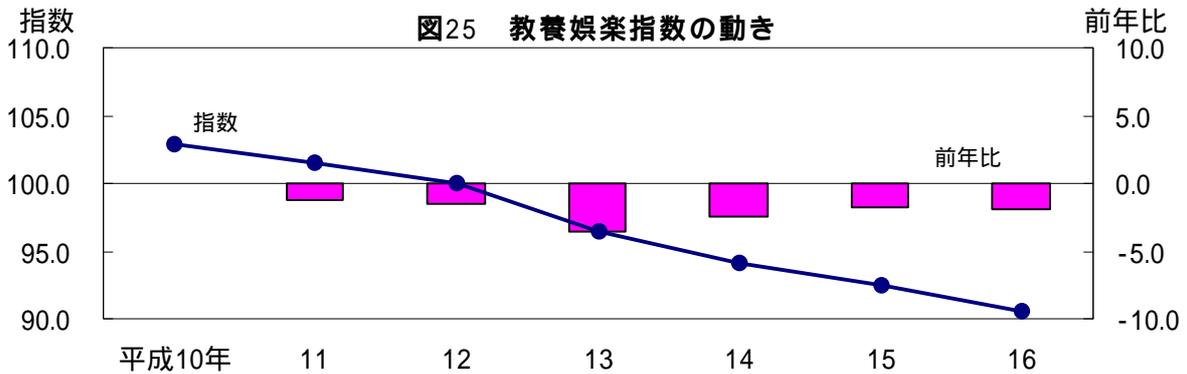
**教育（103.0）は補習教育の値上げなどにより1.5%上昇**

補習教育（103.8）が3.8%の上昇，授業料等（102.7）が0.6%の上昇などにより，教育は指数作成以来連続して上昇した。



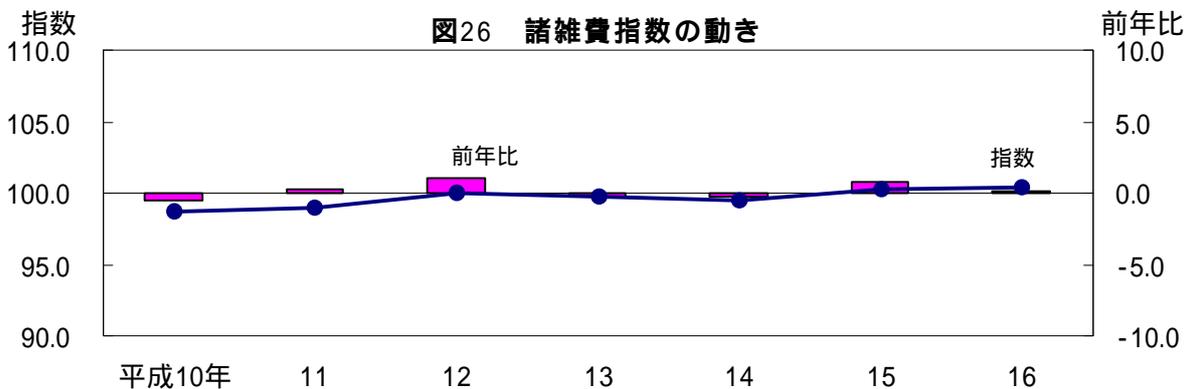
**教養娯楽（90.6）は教養娯楽用耐久財の値下げなどにより1.9%下落**

パソコンなどの教養娯楽用耐久財（50.5）が13.1%の下落，園芸用土などの教養娯楽用品（88.5）が3.2%の下落などにより，教養娯楽は6年連続して下落した。



**諸雑費（100.4）はたばこの値上げなどにより0.1%上昇**

たばこ（108.2）が3.9%の上昇，通学用かばんなどの身の回り用品（102.8）が2.7%の上昇などにより，諸雑費は2年連続上昇した。



## 5 三次市の動き

### (1) 総合指数及び生鮮食品を除く総合指数

#### 総合指数及び生鮮食品を除く総合指数は6年連続の下落

家具・家事用品，交通・通信などの下落により，総合指数の前年比は0.1%下落し，下落幅は0.2ポイント縮小した。

生鮮食品を除く総合指数の前年比は0.3%下落し，下落幅は前年と同一であった。

総合指数及び生鮮食品を除く総合指数が6年連続下落したのは，指数作成以来初めてである。

表13 三次市消費者物価指数の10大費目

(平成12年=100)

区分	指数	前年比(%)		前年比の動き	費目別の動き	
		16年	15年		上昇した費目	下落した費目
総合	97.7	0.1	0.3	6年連続下落		
生鮮食品を除く総合	97.5	0.3	0.3	6年連続下落		
食料	98.5	0.3	0.5	2年連続上昇	穀類(2.9) 野菜・海藻(3.0)	魚介類(3.6) 飲料(3.2)
生鮮食品	101.1	1.0	3.2	2年連続上昇	生鮮野菜(5.9) 生鮮果物(6.9)	生鮮魚介(5.0)
住居	98.5	0.2	0.0	5年ぶりに上昇	家賃(0.6)	設備修繕・維持(1.0)
光熱・水道	97.1	0.5	1.4	4年ぶりに上昇	他の光熱(5.1) 電気代(0.3)	ガス代(0.8)
家具・家事用品	85.8	3.9	3.8	10年連続下落	寝具類(11.0)	家庭用耐久財(7.6) 家事雑貨(6.2)
被服及び履物	95.3	0.7	2.0	4年ぶりに上昇	履物類(3.7) シャツ・セーター類(2.3)	他の被服(3.4) 和服(3.3)
保健医療	102.2	0.6	3.1	2年ぶりに下落	保健医療サービス(0.9)	保健医療用品・器具(5.9)
交通・通信	98.7	0.9	0.0	2年ぶりに下落		自動車等関係費(0.9) 通信(1.3)
教育	102.7	0.5	0.8	指数作成以来連続して上昇	授業料等(0.8)	教科書・学習参考教材(0.3)
教養娯楽	93.0	1.0	1.7	6年連続下落	教養娯楽用耐久財(4.0) 書籍・他の印刷物(0.5)	教養娯楽用品(4.0) 教養娯楽サービス(0.2)
諸雑費	101.7	0.2	0.5	4年ぶりに下落	たばこ(3.9)	理美容用品(2.4) 身の回り用品(0.7)

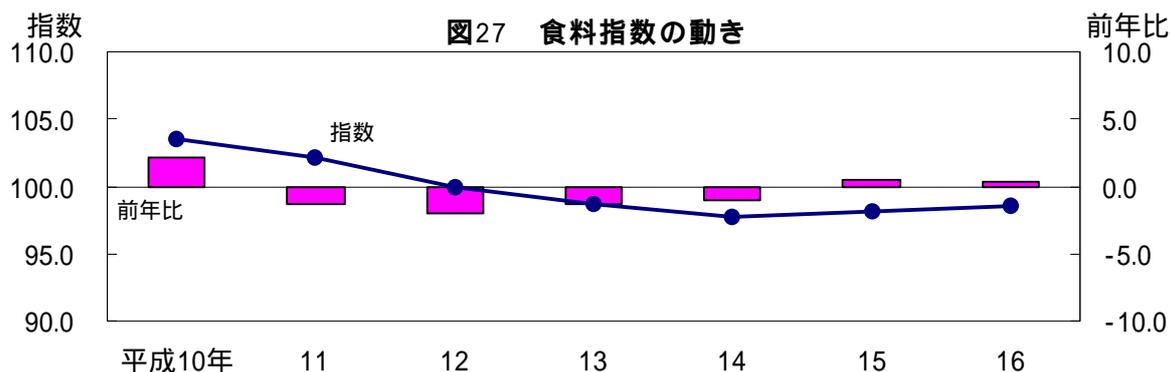
表14 三次市 10大費目の動き（前年比：％）

区分	平成10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
総合	0.6	0.6	1.1	1.2	0.7	0.3	0.1
生鮮食品を除く総合	0.3	0.4	0.7	1.2	0.7	0.3	0.3
食料	2.1	1.3	2.0	1.3	1.0	0.5	0.3
生鮮食品	6.4	3.8	6.7	0.5	2.5	3.2	1.0
住居	1.0	0.2	1.5	1.6	0.1	0.0	0.2
光熱・水道	4.0	1.6	1.4	1.6	0.4	1.4	0.5
家具・家事用品	2.8	1.0	2.3	1.8	5.5	3.8	3.9
被服及び履物	3.3	0.3	0.9	2.6	0.9	2.0	0.7
保健医療	5.5	1.2	1.5	0.3	0.6	3.1	0.6
交通・通信	1.9	1.1	0.1	0.3	0.1	0.0	0.9
教育	0.9	1.2	0.8	0.8	0.6	0.8	0.5
教養娯楽	0.3	0.6	1.1	2.1	2.5	1.7	1.0
諸雑費	0.4	1.5	0.8	0.9	0.5	0.5	0.2

（2）費目別指数の動き（平成12年=100，前年比：％，以下同じ。）

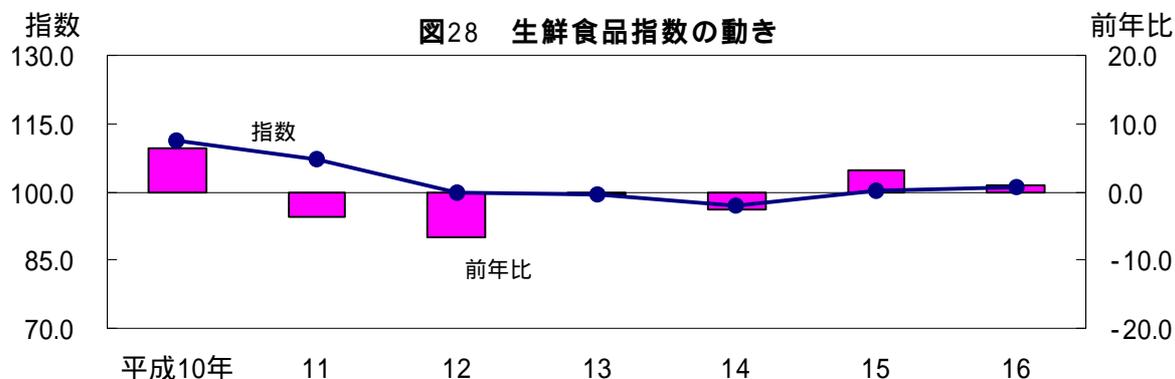
食料（98.5）は、穀類の値上げなどにより0.3％上昇

国産米などの穀類（100.4）が2.9％の上昇、ねぎなどの野菜・海藻（107.7）が3.0％の上昇などにより、食料は2年連続上昇した。



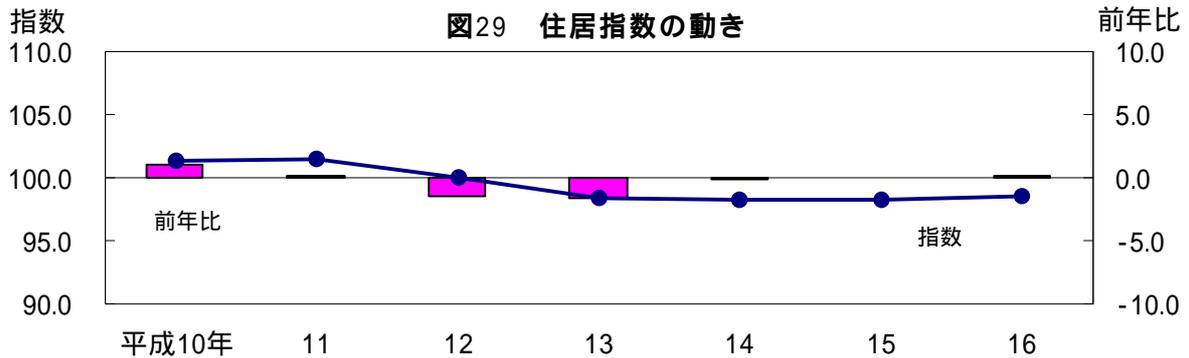
生鮮食品（101.1）は、生鮮野菜の値上げなどにより1.0％上昇

生鮮野菜（112.4）が5.9％上昇、生鮮果物（103.6）が6.9％上昇により生鮮食品は2年連続上昇した。



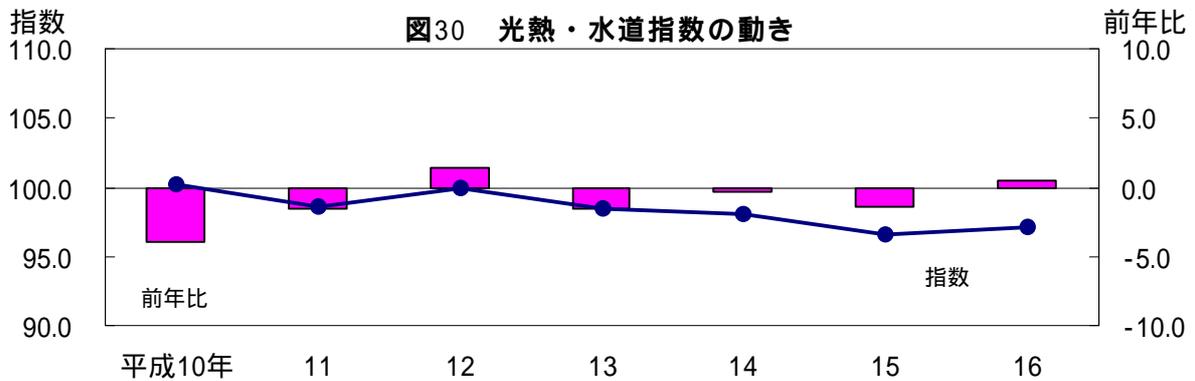
**住居（98.5）は家賃の値上げなどにより0.2%上昇**

公営家賃などの家賃（98.5）が0.6%の上昇などにより、住居は、5年ぶりに上昇した。



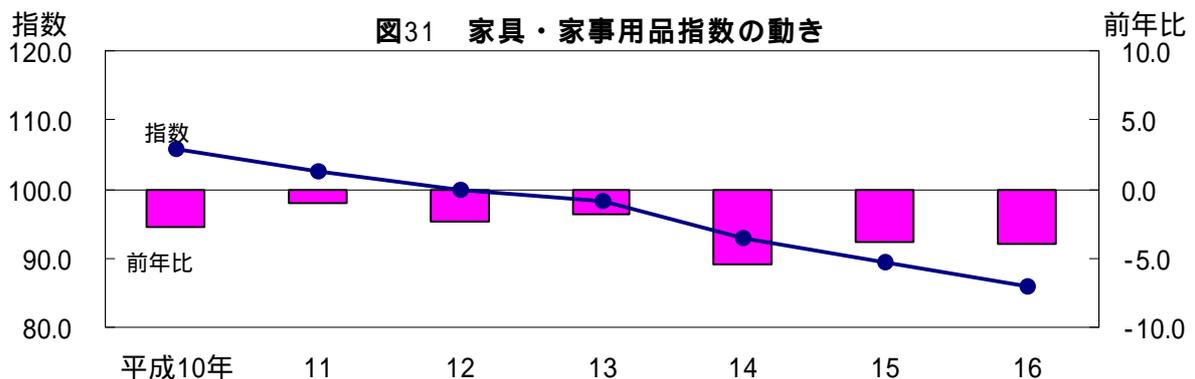
**光熱・水道（97.1）は他の光熱の値上げなどにより0.5%上昇**

灯油などの他の光熱（109.0）が5.1%の上昇，電気代（94.3）が0.3%の上昇などにより，光熱・水道は4年ぶりに上昇した。



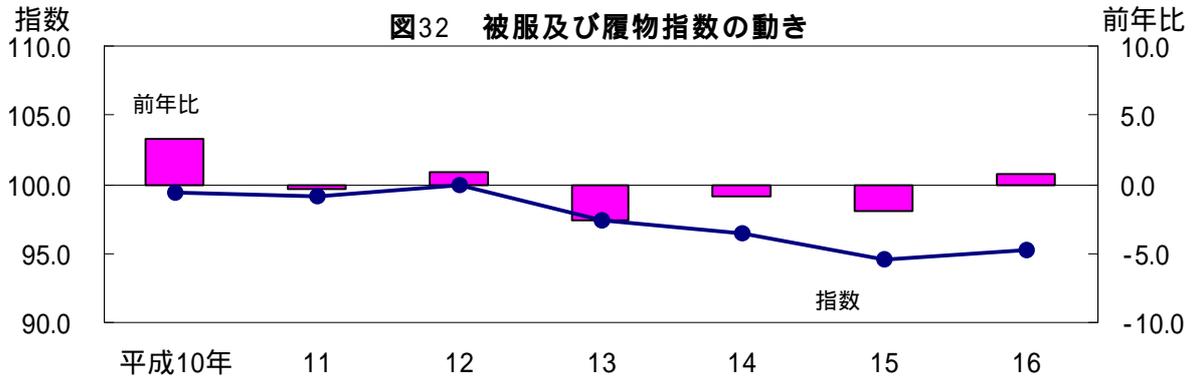
**家具・家事用品（85.8）は家庭用耐久財の値下げなどにより3.9%下落**

電気洗濯機などの家庭用耐久財（72.0）が7.6%の下落，蛍光ランプなどの家事雑貨（87.8）が6.2%の下落などにより，家具・家事用品は10年連続して下落した。



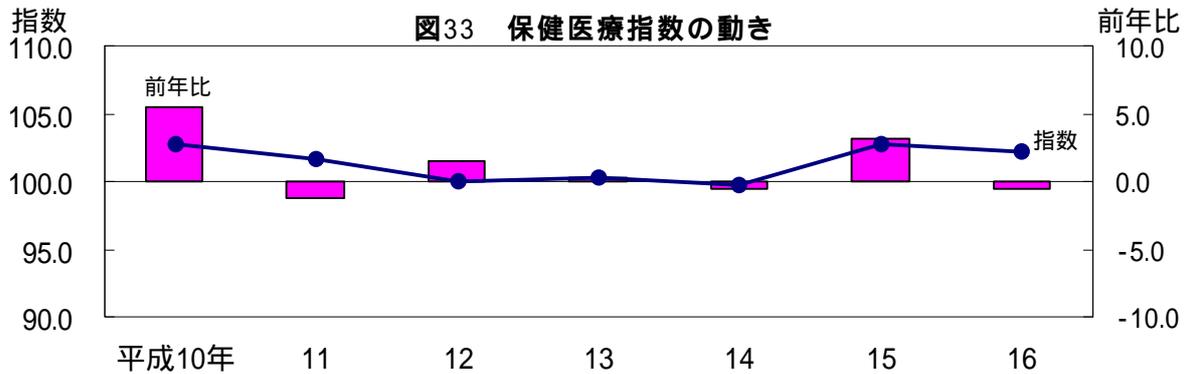
**被服及び履物（95.3）は履物類の値上げなどにより0.7%上昇**

婦人靴などの履物類（101.5）が3.7%の上昇，婦人Tシャツなどのシャツ・セーター類（96.2）が2.3%の上昇などにより，被服及び履物は4年ぶりに上昇した。



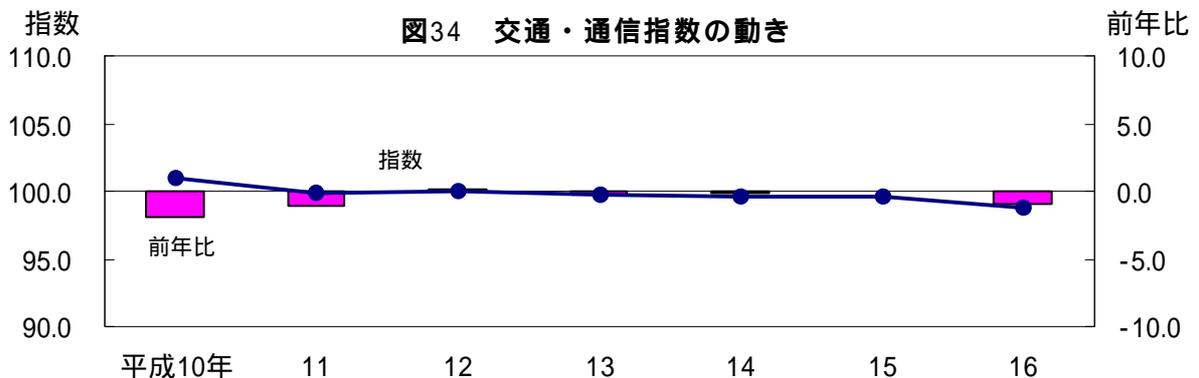
**保健医療（102.2）は保健医療用品・器具の値下げなどにより0.6%下落**

生理用ナプキンなどの保健医療用品・器具（83.3）が5.9%の下落などにより，保健医療は2年ぶりに下落した。



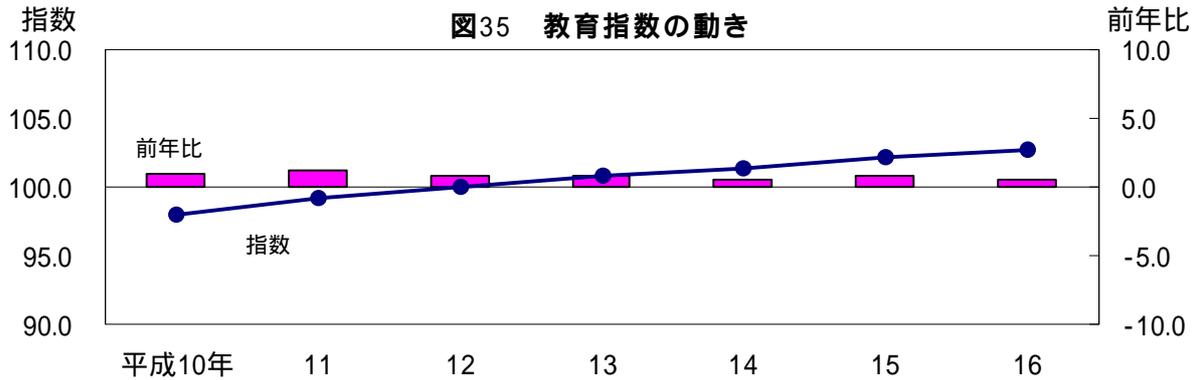
**交通・通信（98.7）は自動車等関係費の値下げなどにより0.9%下落**

自動車保険料(任意)などの自動車等関係費（100.8）が0.9%の下落，固定電話通信料などの通信（91.3）が1.3%の下落などにより，交通・通信は2年ぶりに下落した。



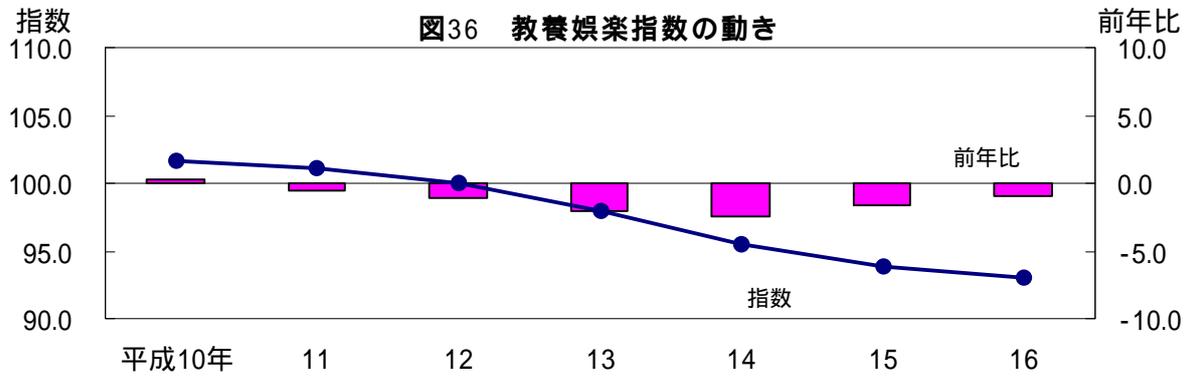
**教育（102.7）は授業料等の値上げなどにより0.5%上昇**

授業料等（103.9）が0.8%の上昇などにより、**教育**は指数作成以来連続して上昇した。



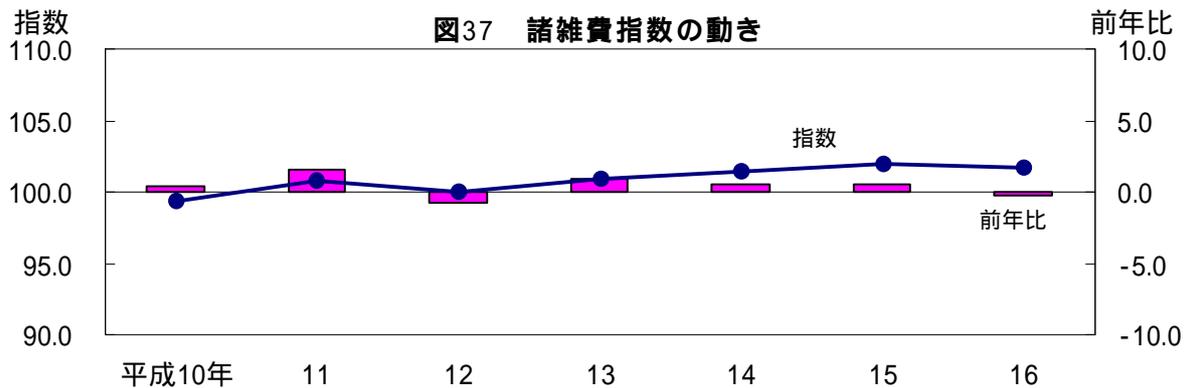
**教養娯楽（93.0）は教養娯楽用品の値下げなどにより1.0%下落**

園芸用土などの教養娯楽用品（88.3）が4.0%の下落、ゴルフプレー料金などの教養娯楽サービス（98.4）が0.2%の下落などにより、**教養娯楽**は6年連続して下落した。



**諸雑費（101.7）は理美容用品の値下げなどにより0.2%下落**

シャンプーなどの理美容用品（97.8）が2.4%の下落、通学用かばんなどの身の回り用品（105.3）が0.7%の下落などにより**諸雑費**は4年ぶりに下落した。



6 3市平均の動き（3市平均指数は平成12年分から作成）

(1) 総合指数及び生鮮食品を除く総合指数

総合指数及び生鮮食品を除く総合指数ともに4年連続の下落

教養娯楽，家具・家事用品などの下落により，総合指数の前年比は0.4%下落し，下落幅は0.1ポイント拡大した。生鮮食品を除く総合指数の前年比は0.4%下落し，下落幅は前年と同一となった。

表15 3市平均消費者物価指数の10大費目

(平成12年=100)

区 分	指数	前年比(%)		前年比の動き	費目別の動き	
		16年	15年		上昇した費目	下落した費目
総 合	97.7	0.4	0.3	4年連続下落		
生鮮食品を除く総合	97.6	0.4	0.4	4年連続下落		
食 料	98.5	0.4	0.1	2年連続上昇	穀類(4.8) 野菜・海藻(4.0) 外食(1.4)	魚介類( 3.1) 飲料( 3.7) 酒類( 3.2)
生鮮食品	100.5	0.5	1.8	2年連続上昇	生鮮野菜(5.0) 生鮮果物(3.1)	生鮮魚介( 4.9)
住 居	99.3	0.5	0.3	3年連続下落		家賃( 0.4) 設備修繕・維持( 0.8)
光熱・水道	100.0	0.5	0.9	2年ぶりに上昇	上下水道料(1.6) 他の光熱(3.4)	ガス代( 0.6)
家具・家事用品	88.0	4.6	2.5	4年連続下落	寝具類(3.4)	家庭用耐久財( 10.3) 室内装備品( 11.0)
被服及び履物	94.4	0.1	1.9	4年連続下落	シャツ・セーター類(1.2) 履物類(0.9)	洋服( 0.8) 和服( 3.3)
保健医療	101.4	0.4	2.2	2年ぶりに下落	保健医療サービス(0.9)	保健医療用品・器具( 4.8)
交通・通信	98.0	0.5	0.1	4年連続下落		自動車等関係費( 0.5) 通信( 1.2)
教 育	104.0	1.0	0.9	4年連続上昇	補習教育(1.7) 授業料等(0.6)	
教 養 娯 楽	91.6	1.9	1.6	4年連続下落	書籍・他の印刷物(0.5)	教養娯楽用耐久財( 11.2) 教養娯楽用品( 3.3)
諸 雑 費	100.8	0.1	0.7	2年連続上昇	たばこ(3.9) 理美容サービス(0.1)	理美容用品( 1.5)

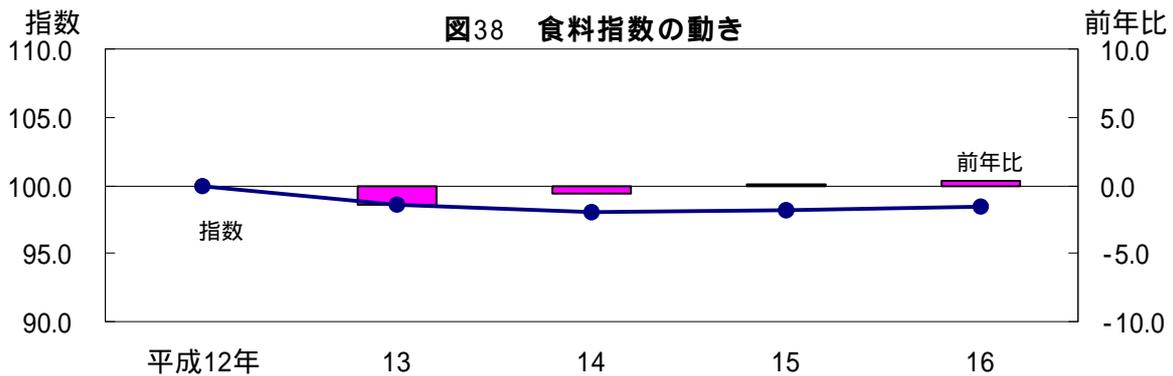
表16 3市平均 10大費目の動き(前年比:%)

区分	12年	13年	14年	15年	16年
総合	-	0.9	0.7	0.3	0.4
生鮮食品を除く総合	-	0.9	0.7	0.4	0.4
食料	-	1.4	0.6	0.1	0.4
生鮮食品	-	0.3	2.1	1.8	0.5
住居	-	0.4	0.3	0.3	0.5
光熱・水道	-	0.2	0.6	0.9	0.5
家具・家事用品	-	2.1	3.4	2.5	4.6
被服及び履物	-	2.8	0.9	1.9	0.1
保健医療	-	0.8	1.2	2.2	0.4
交通・通信	-	0.7	0.7	0.1	0.5
教育	-	0.8	1.3	0.9	1.0
教養娯楽	-	2.9	2.3	1.6	1.9
諸雑費	-	0.5	0.5	0.7	0.1

(2) 費目別指数の動き(平成12年=100,前年比:%,以下同じ。)

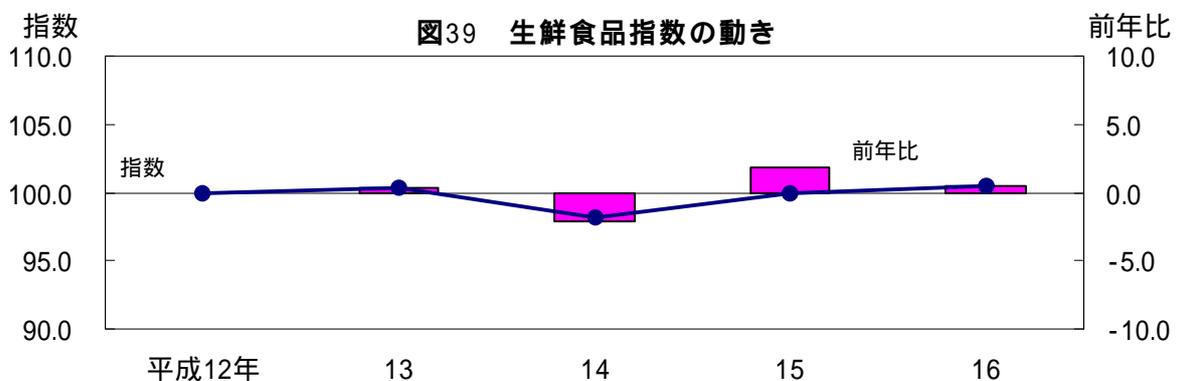
食料(98.5)は穀類の値上げなどにより0.4%上昇

国産米などの穀類(102.6)が4.8%の上昇,はくさいなどの野菜・海藻(104.5)が4.0%の上昇などにより食料は2年連続上昇した。



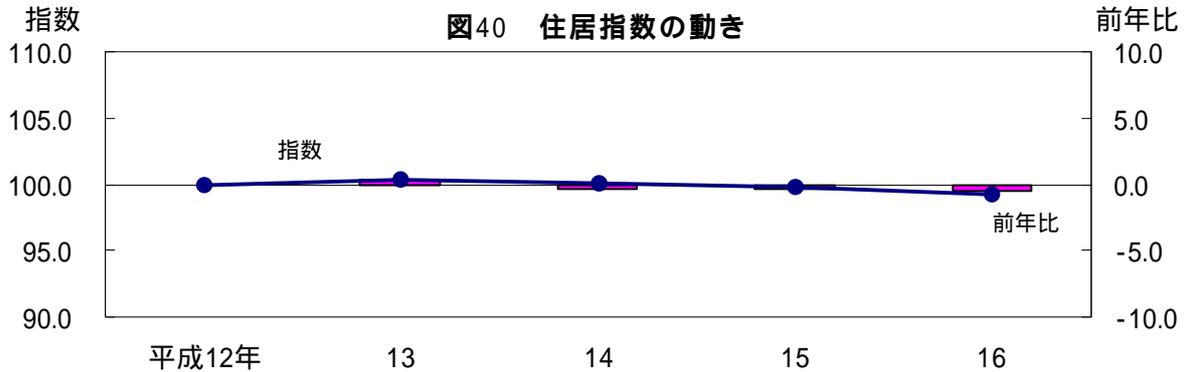
生鮮食品(100.5)は生鮮野菜の値上げなどにより0.5%上昇

生鮮野菜(112.7)が5.0%の上昇,生鮮果物(99.3)が3.1%の上昇などにより,生鮮食品は2年連続上昇した。



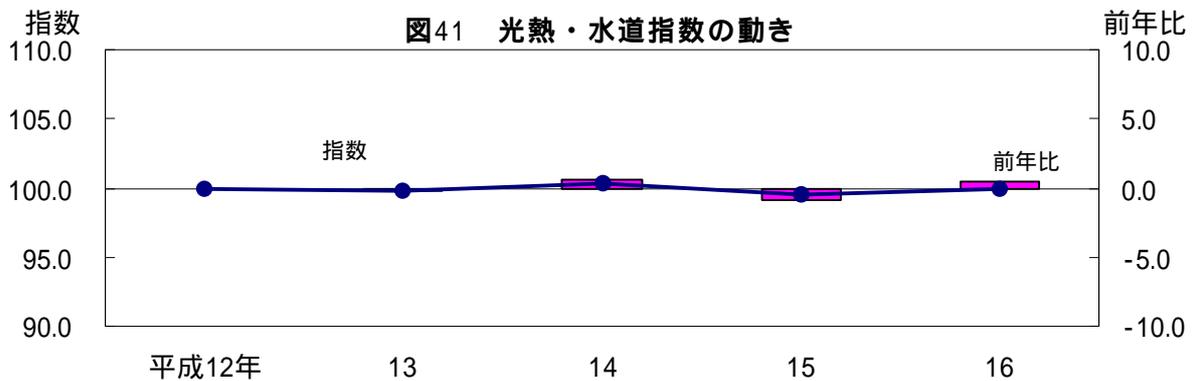
**住居（99.3）は家賃の値下げなどにより 0.5%下落**

持家の帰属家賃などの家賃（99.7）が0.4%の下落，温水洗浄便座などの設備修繕・維持（98.0）が0.8%の下落などにより，住居は3年連続して下落した。



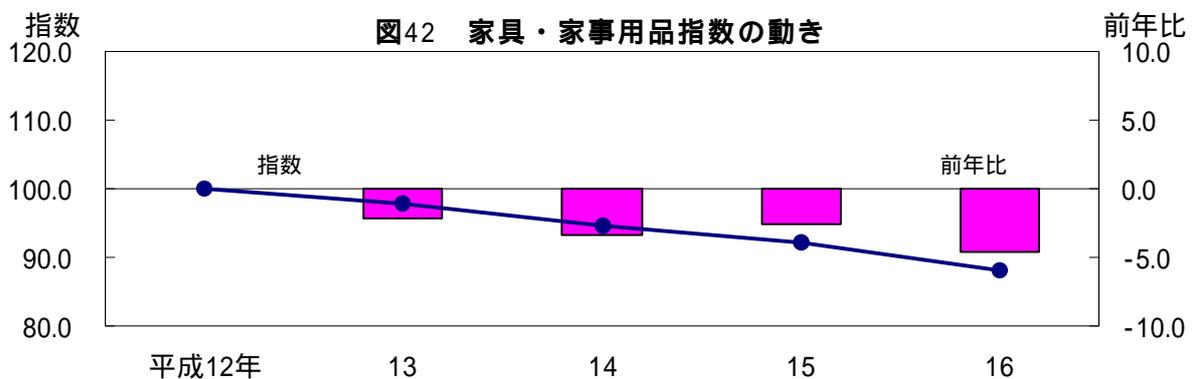
**光熱・水道（100.0）は上下水道料の値上げなどにより0.5%上昇**

広島市の下水道料金の値上げなどによる上下水道料（108.9）が1.6%の上昇，灯油の値上げによる他の光熱（109.1）が3.4%の上昇などにより，光熱・水道は2年ぶりに上昇した。



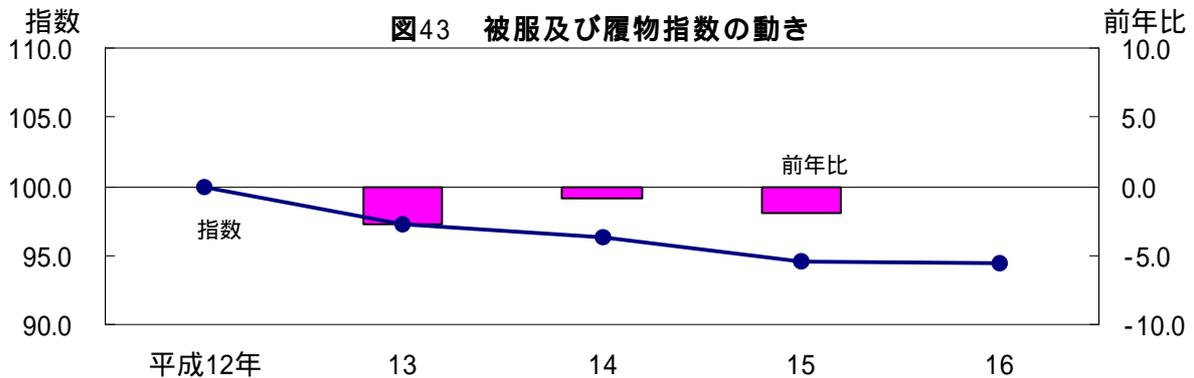
**家具・家事用品（88.0）は家庭用耐久財の値下げなどにより 4.6%下落**

電気冷蔵庫などの家庭用耐久財（72.0）が10.3%の下落，カーペットなどの室内装備品（83.6）が11.0%の下落などにより，家具・家事用品は4年連続して下落した。



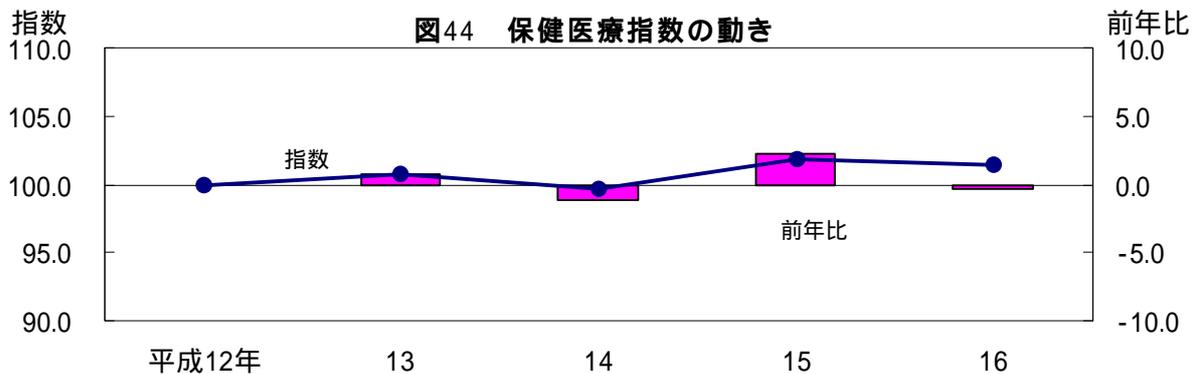
**被服及び履物（94.4）は洋服の値下げなどにより 0.1%下落**

婦人スーツなどの洋服（89.8）が0.8%の下落，婦人帯などの和服（100.5）が3.3%の下落などにより，被服及び履物は4年連続して下落した。



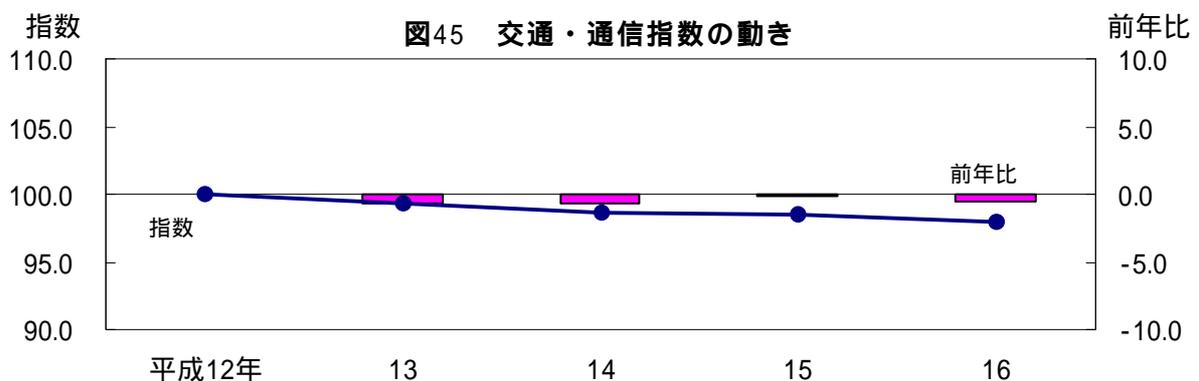
**保健医療（101.4）は保健医療用品・器具の値下げなどにより 0.4%下落**

紙おむつなどの保健医療用品・器具（88.3）が4.8%の下落などにより，保健医療は2年ぶりに下落した。



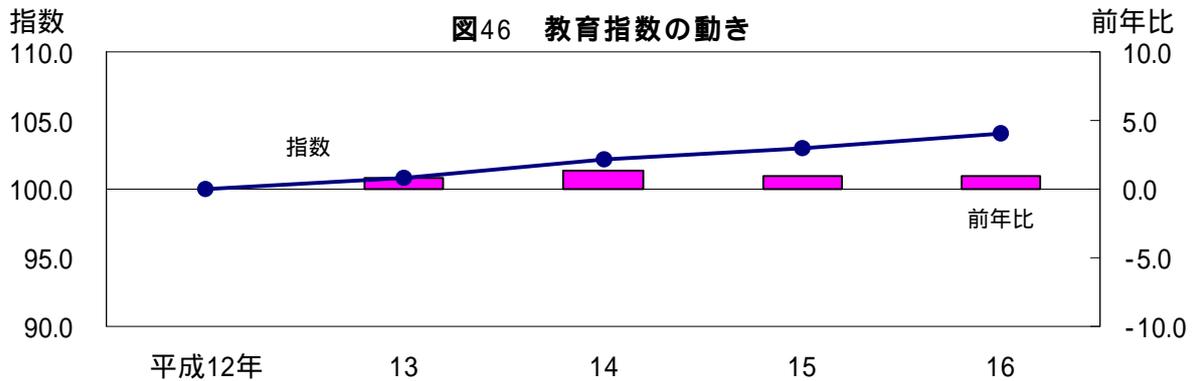
**交通・通信（98.0）は自動車等関係費の値下げなどにより 0.5%下落**

自動車保険料(任意)などの自動車等関係費（99.4）が0.5%の下落，固定電話通信用料などの通信（91.7）が1.2%の下落などにより，交通・通信は4年連続して下落した。



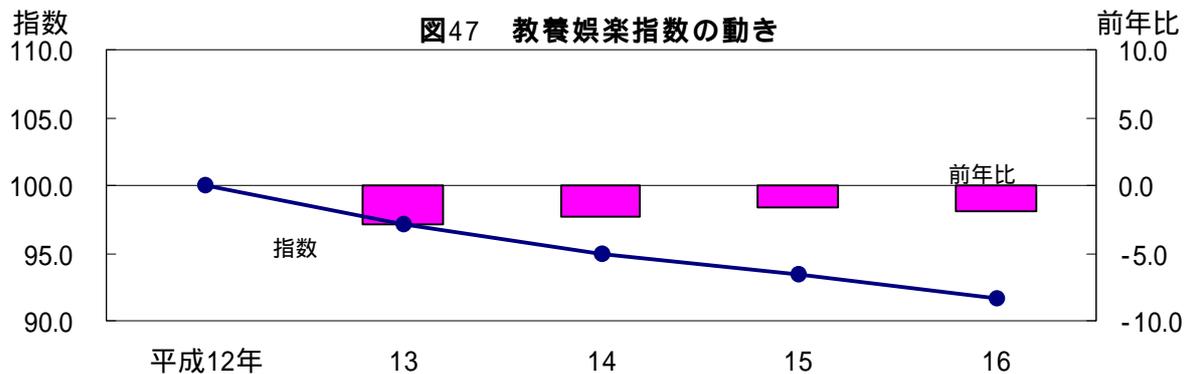
**教育（104.0）は補習教育の値上げなどにより1.0%上昇**

補習教育（104.9）が1.7%の上昇，授業料等（103.7）が0.6%の上昇などにより4年連続して上昇した。



**教養娯楽（91.6）は教養娯楽用耐久財の値下げなどにより1.9%下落**

パソコンなどの教養娯楽用耐久財（56.9）が11.2%の下落，園芸用土などの教養娯楽用品（89.1）が3.3%の下落などにより，教養娯楽は4年連続して下落した。



**諸雑費（100.8）はたばこの値上げなどにより0.1%上昇**

たばこ（108.2）が3.9%の上昇，理髪料などの理美容サービス（101.3）が0.1%の上昇となり，諸雑費は2年連続上昇した。

